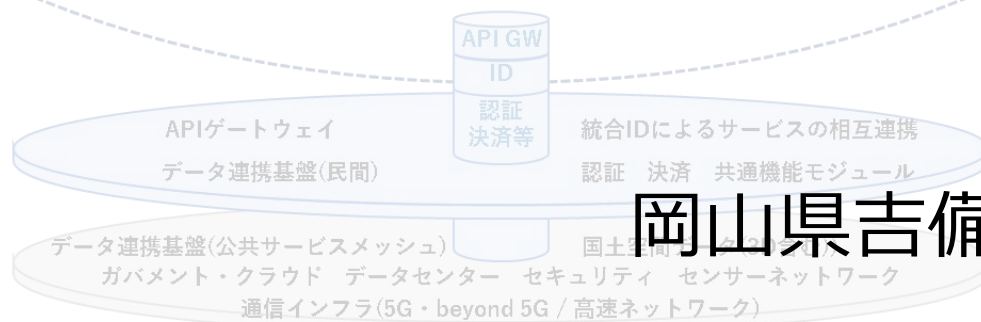


令和3年度補正予算 デジタル田園都市国家構想推進交付金 デジタル実装タイプ TYPE3 「誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生」 に関する報告

令和5年5月15日



岡山県吉備中央町

プレゼンテーション資料



1.事業概要



事業概要：「誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生」（公表用）

実施主体	岡山県吉備中央町	事業費	386,690千円
概要	実現したい地域の将来像「誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生」を具現化するため、事業領域として次のA～Eの5つを定義し、医療・母子保健・健康・福祉等の各サービスの実装および住民参画型の一元的窓口支援組織・拠点の整備をおこなう。 A.救急医療 B.母子保健・児童見守り C.介護・高齢者見守り・移動 D.データ連携基盤 E.インクルーシブ・スクエア設立		

【地域課題】

医療分野の特定診療科目（産婦人科・小児科・耳鼻科・救急対応）の不足、また、移動分野では、通院・通学・買い物などへの移動手段が不足していることが課題となっている。さらに、少子高齢化・人口減少に伴う主体的行動が低下し、コミュニティの活気が失われ、政令指定都市に隣接するにも関わらず「社会的孤立・孤独」の自己認識化が進むとともに、コロナ禍の長期化が「我が身は自分で守る」「他人に迷惑をかけない」行動の制限を強いられ、孤独感が心と身体のバランスを崩し「Wellbeing = 真の幸福」から遠くの状況に陥りつつある。

【目指す将来像】

医療・福祉・生活軸を重点に、人中心のデータ連携基盤を活用した事業サービスを実装することで、孤立・孤独のライフサイクルの変化を起こし、「個人が社会的孤立・孤独からの脱却、かつ、ひとり一人の多様な幸せ「Well-being」が確保される地域社会の実現」を目指す。

さらに住民参画型で地域の個人を支える多様なステークホルダーらによる一元的窓口支援（きびコンシェルジュなんでもサポーターズ）が伴奏する社会システム「インクルーシブスクエア」を構築・運営することで、人と組織、地域のエンゲージメントの好循環を生み出し、事業実施地域社会の変容を実現する。

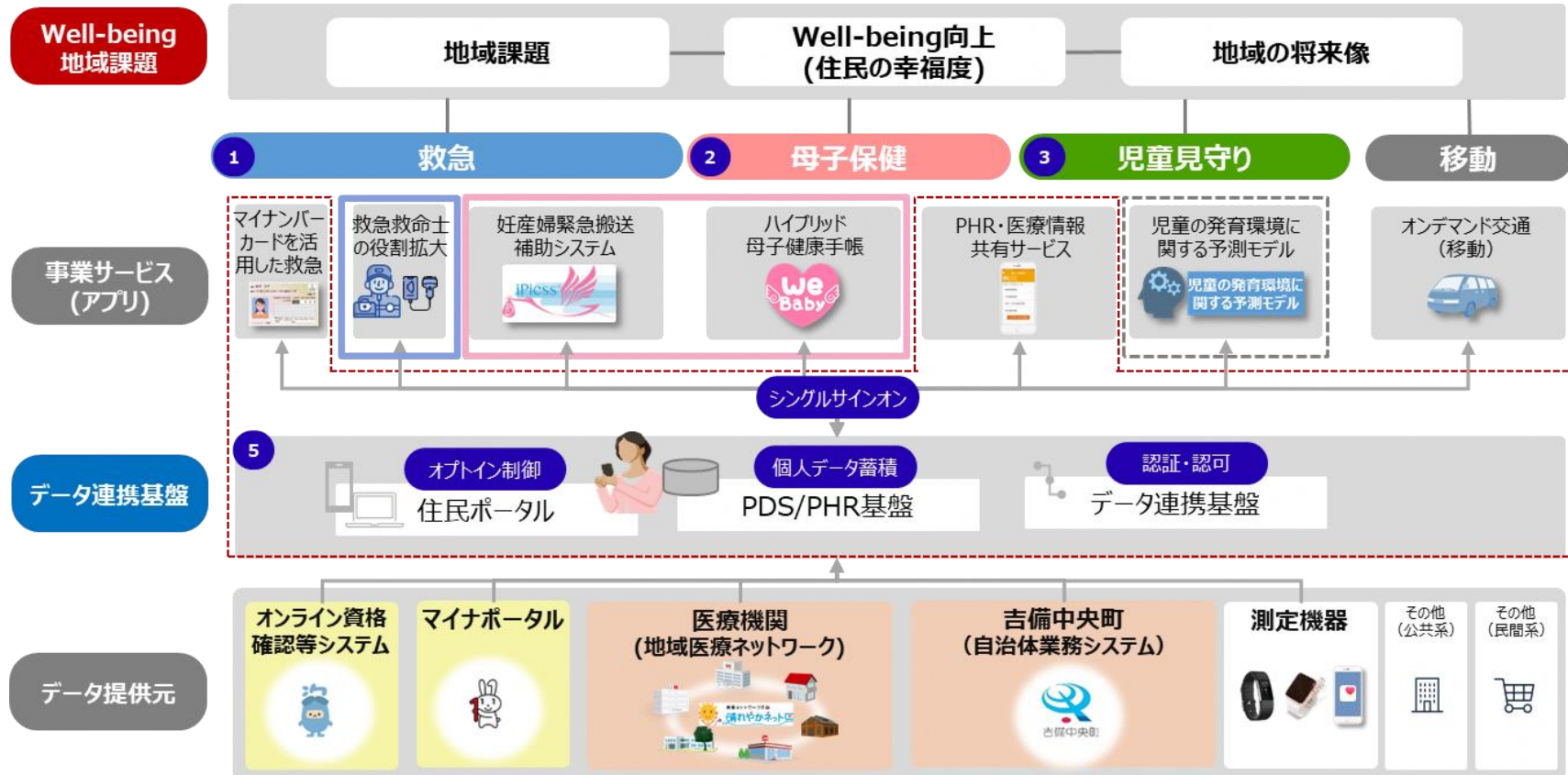
誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生



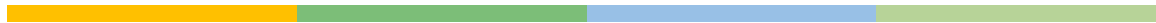
事業概要：「誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生」（公表用）

実施主体	岡山県吉備中央町	事業費	386,690千円
概要	実現したい地域の将来像「誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生」を具現化するため、事業領域として次のA～Eの5つを定義し、医療・母子保健・健康・福祉等の各サービスの実装および住民参画型の一元的窓口支援組織・拠点の整備をおこなう。 A.救急医療 B.母子保健・児童見守り C.介護・高齢者見守り・移動 D.データ連携基盤 E.インクルーシブ・スクエア設立		

住民のWell-being向上を目標に、データ連携基盤を活用した事業サービスの実装を目指す



2. サービス実装進捗報告書

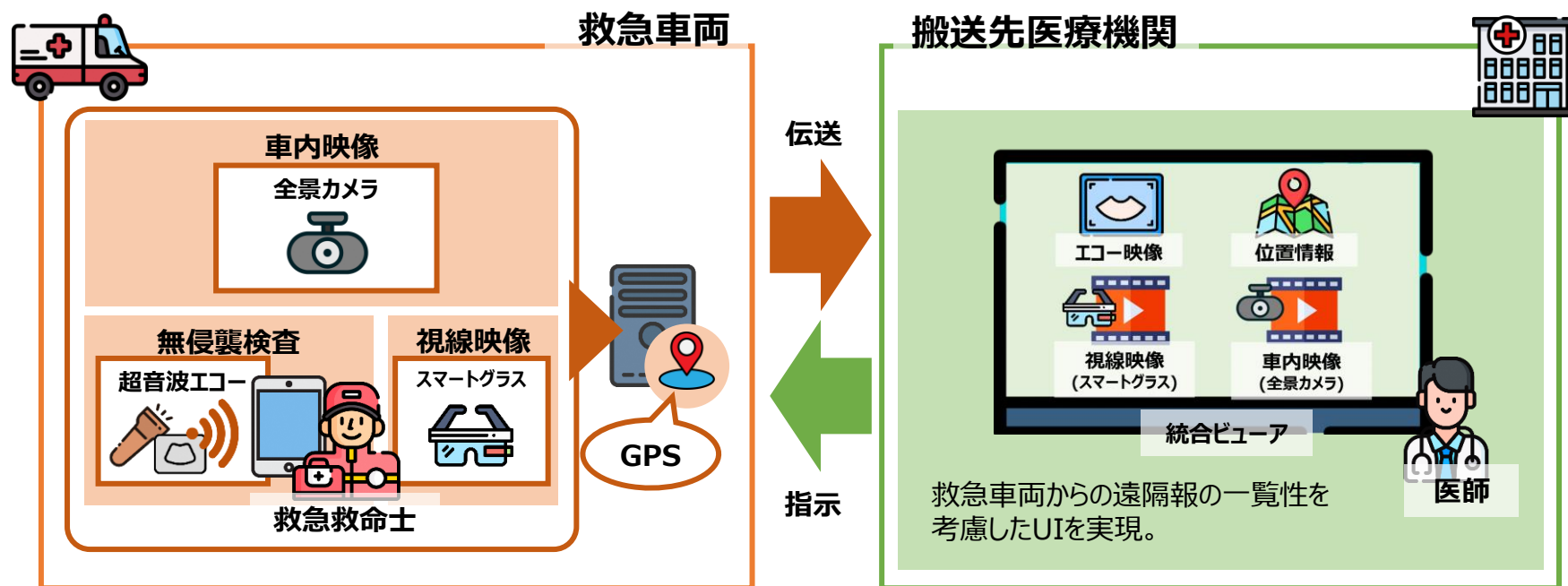


本事業においては、以下のサービスを令和4年度3月末までに実装しましたので、報告を行います

サービス名	実装ステータス
①【救急医療】エコー装置による遠隔的な情報収集・伝送サービス	令和5年3月に実装済
②【救急医療】施設間救急搬送支援サービス	令和5年3月に実装済
③【母子保健・児童見守り】母子健康手帳のデジタル化サービス	令和4年9月に実装済
④【母子保健・児童見守り】PHR基盤サービス	令和5年3月に実装済
⑤【母子保健・児童見守り】予防歯科クラウドサービス	令和5年3月に実装済
⑥【介護・高齢者見守り】孤立・孤独予防サービス	令和5年3月に実装済
⑦【データ連携基盤】データ連携基盤サービス	令和5年3月に実装済
⑧【インクルーシブ・スクエア】きびコンシェルジュなんでもサポーターズ	令和5年3月に実装済

救急救命士を医療行為の前段階で情報収集を担う役割と位置づけ、非侵襲・低侵襲なセンサーを用い、搬送先医療機関の医師へレベルの高い動的情報をリアルタイムに伝送できるシステムを構築する。具体的には非侵襲なセンサーとして超音波エコー装置を利用し、超音波エコーと救急搬送時の車内の映像を伝送する。同時に超音波エコー検査を救急救命士に教育するためのコンテンツを作成し、教育を実施する。

将来的に救急救命士の処置拡大を実現した上で、救急車両での超音波エコー検査を実施し、搬送先医療機関へエコー映像を伝送、搬送先の医師から指示を受ける。同時に、処置中の救急救命士の視線映像と救急車両内の全景映像も搬送先の医師へ伝送し、検査時に参照する。また、GPS情報も共有し、車両の位置を把握できる。



救急救命士の処置拡大が実現するまで、岡山大学病院のドクターカーで運用を進める。



● サービスの実装状況

開発・実装体制	岡山大学病院、バース・ビュー株式会社、そなえ株式会社
実装ステータス	令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	岡山大学病院ドクターカーの運用範囲（吉備中央町を含む。）
サービスのターゲット	岡山大学病院ドクターカー要請された事案のうち、超音波エコー装置で「FAST」検査等の処置が必要な患者の搬送事案
サービスの規模感	岡山大学病院ドクターカー(1台)、岡山大学病院で運用
サービスインに関するURL	https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/news/detail425.html https://www.birdsview.jp/blog/2023emergency-control-system
4月以降の運用体制	岡山大学病院、バース・ビュー株式会社、そなえ株式会社



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	超音波エコー映像伝送機能の使用に対する懸案指摘の割合	種別	アウトプット	単位	%
KPIの概要、測定方法	超音波エコー映像伝送機能の使用に対する関係者からの懸案指摘の割合を算出する。				
事業成果等の計測に適する理由	超音波エコー映像伝送機能の使用に対して関係者からの懸案指摘の割合が減っていくことが、機能自身および運用の安定性を示す。同時に、機能への関係者の満足度の指標にもなる。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	75		50		25

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	69
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	特に医療者から臨臨床的・業務的な高評価があり、懸案率は想定を下回った。しかし、システムへの要望や運用上の改善点、機器への意見もあった。
リカバリー策	懸案を1つ1つ確実に解消していくことで、ユーザーのシステムに対する満足度を高めていく。



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	エコー映像伝送機能利用者の満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	エコー映像伝送機能を利用する医師の5段階評価満足度の平均値。医師に対してアンケートを実施。				
事業成果等の計測に適する理由	エコー映像伝送機能を利用し満足した人数が多ければ多いほど、エコー映像伝送機能に効果があると考えられるため。また、アンケートにて、任意で不満な点を記入してもらうことで、エコー映像伝送機能の改善を図る。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	2.5		3.5		4.5

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	4.65
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	前項「超音波エコー映像伝送機能の使用に対する懸案指摘の割合」で上げられた懸案が解消されたことを前提に、アンケートの回答ではその有用性が大いに期待されることとなった。
リカバリー策	電波状況や機器設置に代表される問題の解決により、満足度を有用性に近づけるように、今後の事業を進めていく。



● データ連携基盤との接続状況

iPicssによる搬送情報共有部分について、データ連携基盤との接続を、当初の計画通り2023年度に予定している。

● 接続する具体的なデータについて

● インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	R4年度補正デジタル田園都市国家構想推進交付金事業で実装予定
接続しているデータ種別	2023年度に、接続するデータを検討し、接続を実装する予定

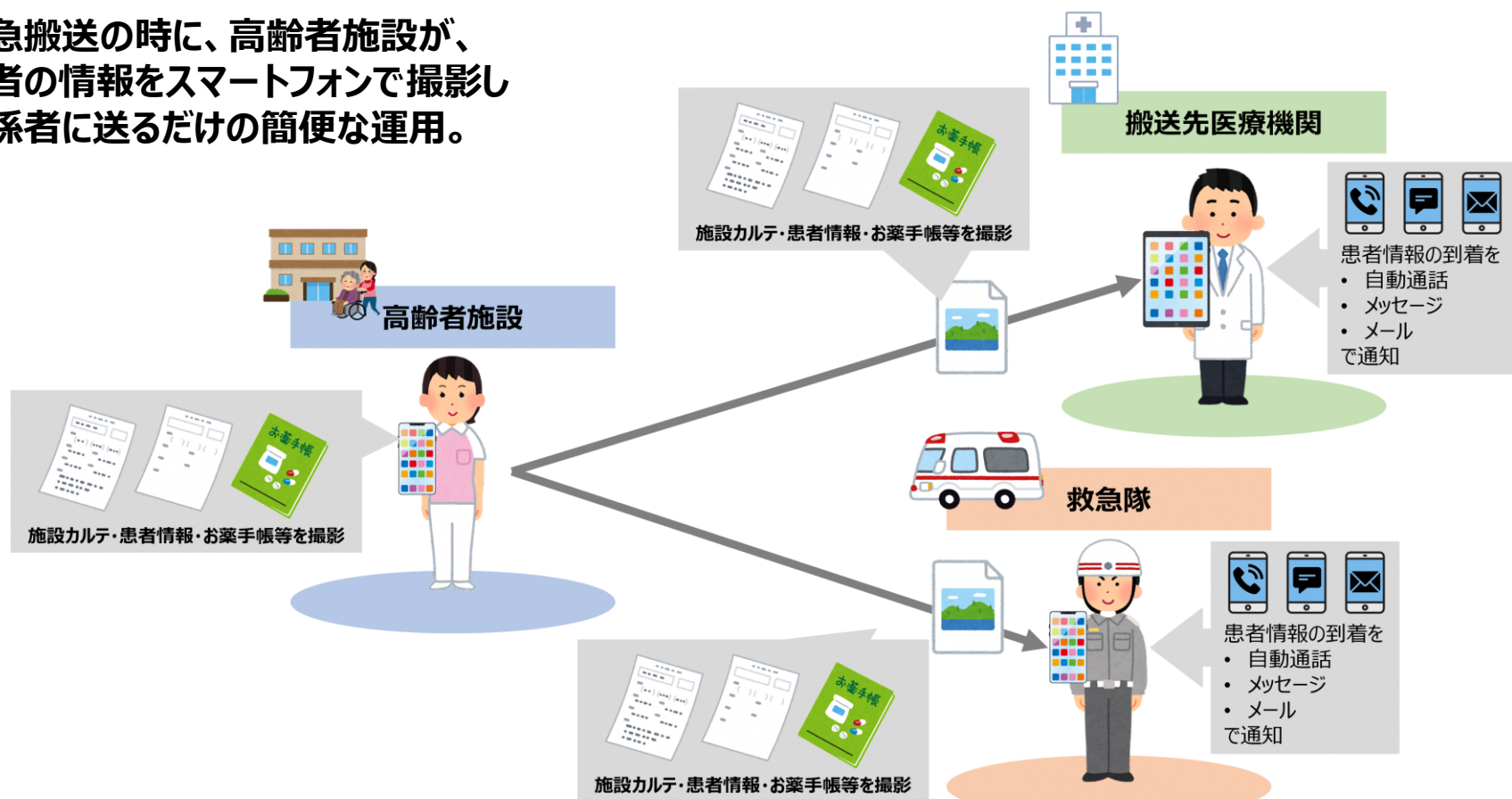
● アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	R4年度補正デジタル田園都市国家構想推進交付金事業で実装予定
接続しているデータ種別	2023年度に、接続するデータを検討し、接続を実装する予定

サービス実装報告②：「施設間救急搬送支援サービス」

救急搬送に関する情報を医療機関と共有する仕組みを、岡山県内で既に社会実装されている妊産婦緊急搬送補助システム iPicss(アイピクス) ベースで構築し、救急搬送での情報共有プラットフォームと位置づけ、妊産婦から施設間緊急搬送支援サービスとして全世代・疾患領域への拡大を計画。第1段階として、岡山県がウィズコロナ時代の課題として対策が急務である、高齢者施設から病院への救急搬送を対象とし、初めに吉備中央町で実装した。

救急搬送の時に、高齢者施設が、患者の情報をスマートフォンで撮影し関係者に送るだけの簡便な運用。



● サービスの実装状況

開発・実装体制	岡山大学病院、バース・ビュー株式会社、そなえ株式会社
実装ステータス	令和5年3月に実装済。 救急隊の参加は5月1日から。参加する搬送先の医療機関は順次広げていく。
サービスの提供範囲	吉備中央町
サービスのターゲット	吉備中央町の高齢者施設からの救急搬送
サービスの規模感	参加施設： 搬送元高齢者施設 = 10施設、搬送先医療機関 = 6施設、 救急車 = 1台(岡山市消防局吉備中央出張所)
サービスインに関するURL	https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/degital-denen/
4月以降の運用体制	岡山大学病院、バース・ビュー株式会社、そなえ株式会社

サービス実装報告②：「施設間救急搬送支援サービス」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	iPicss利用による救急搬送時の運用時間の軽減	種別	アウトカム	単位	時間(分)
KPIの概要、測定方法		高齢者施設での救急搬送に要する時間の平均値から、iPicss運用前の時間からの短縮時間を算出。			
事業成果等の計測に適する理由		高齢者施設での救急搬送に要する時間でiPicss運用前後の短縮時間により、iPicss運用の効果や有用性の指標として利用する。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
1		1.5		2	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	1.2
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	運用開始が3月下旬であったため、KPI測定時点で、高齢者施設からの救急搬送が発生していなかった。そのため、短縮時間に関し、現行のiPicssによる時間短縮の事例と高齢者施設でスタッフから聴取した時間短縮に関する意見から、KPIを示した。
リカバリー策	ある程度の実搬送が発生した時点で、再度の測定を検討する。

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	iPicssの使用に対する懸案指摘の割合	種別	アウトカム	単位	回数
KPIの概要、測定方法		iPicssの使用に対する関係者からの懸案指摘の割合を算出。			
事業成果等の計測に適する理由		iPicssの使用に対して関係者からの懸案指摘の割合が減って行くことが、サービス自身および運用の安定性を示すと同時に、機能への関係者の満足度の指標にもなる。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
80		50		25	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	67
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	ヒアリングから搬送先選定は基本的に救急隊が行うという現状も判明したことなどにより、懸案はシステムよりも、運用に関するものが多かった。システムへの懸案が少なかったこともあり、懸案率は想定を下回った。
リカバリー策	懸案に関して、電波状態の問題解消の優先度が高く、施設にWi-Fi環境を設置するなどの通信環境の改善から進める必要がある。

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	iPicss利用者の満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	iPicssを利用する施設間搬送に関わる関係者(施設スタッフ、医師、救急隊員等)の5段階評価満足度の平均値。関係者に対してアンケートを実施。				
事業成果等の計測に適する理由	iPicssを利用し満足した人数が多ければ多いほど、iPicssに効果があると考えられるため。また、アンケートにて、任意で不満な点を記入してもらうことで、iPicssの改善を図る。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	2.5		3.5		4.5

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	2.8
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	実運用前に、システムの目的・意義を説明の上、実機デモ・実機操作し、満足度をアンケートにより収集した。その結果、想定よりも高い満足度となった。
リカバリー策	懸案事項へ対処することと中山間地域での通信電波の現状への対策を行うことが、満足度を高めることと思われる。

● データ連携基盤との接続状況

データ連携基盤との接続を、当初の計画通り2023年度に予定している。この接続により、マイナンバーカードを利用して個人を特定した患者の情報を収集・参照し、iPicssの情報をデータ連携基盤に連携する。

● 接続する具体的なデータについて

● インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	R4年度補正デジタル田園都市国家構想推進交付金事業で実装予定
接続しているデータ種別	2023年度に、接続するデータを検討し、接続を実装する予定

● アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	R4年度補正デジタル田園都市国家構想推進交付金事業で実装予定
接続しているデータ種別	2023年度に、接続するデータを検討し、接続を実装する予定

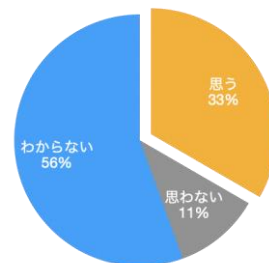
サービス実装報告③：「母子健康手帳のデジタル化サービス」

周産期・小児医療の偏在が顕著かつ医療機関の機能分化の影響で少子高齢化が進んでいる本町では、母子医療の安心・安全を提供し、妊産婦と小児へ市全体で子育て志向強化を推進し、安心して妊娠・出産・子育てができるまちづくりを通し、次世代住民の獲得と出産数増加の仕組みを設けることが重要である。WeLoveBaby（ウイラバ）事業は、デジタルを用いたコミュニティ形成の場である。既存の母子健康手帳を写真にとるだけで自動でデジタル化するハイブリッド母子健康手帳**ウイラバアプリ**と「子育ては社会で行う」を実現するための**ウイラバペーパー**を利用し、共助・公助を積極的に組み入れつつ、妊娠時の生活環境を予防医学に繋げるPHRやワクチン記録、思い出の無制限・無期限記録や、町のイベント予約・子ども一時預かりの簡単予約申請が可能である。

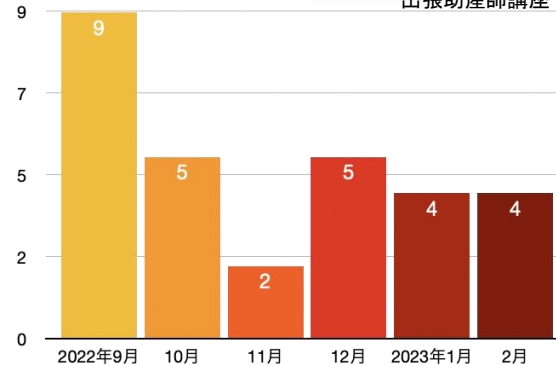
母子手帳のデジタル化と産前産後のデジタルコミュニティ形成 9.29実装



1歳を過ぎてもウイラバのサービスが受けられるなら続けたいと思いますか？



出張助産師講座



月別アプリ登録者数

女性の着眼点を多く採用し、医師・助産師・栄養士・薬剤師が総合的に参画。大学発ベンチャーを活かし、SE、データサイエンティスト、UI/UXデザイナー等、複合型チームを構築。



UI：ウイラバペーパー：妊娠・出産・子育て中に、すこく感覚のゲーミフィケーションを採用。行政や企業から、多くのおトクを体験。「子育ては社会で行う」を町で実現。ワクチン予定やPush通知、本年9月29日の運用以降、*64.3%住民がサービス使用を継続、定期的なヒアリングによる改善を年複数回行う。利用者の満足度の向上を目指す。



WeLoveBaby “ウイラバ”
岡山テックプランターグランプリ 2020 日本ユニシス賞
岡山イノベーションコンテスト2021.大賞&グランプリ:W受賞

● サービスの実装状況

開発・実装体制	サービス開発・運用管理：そなえ株式会社 産官学金連携：そなえ株式会社、岡山大学病院、吉備中央町
実装ステータス	令和4年9月29日に実装済
サービスの提供範囲	岡山県加賀郡吉備中央町
サービスのターゲット	ウイラバサービス対象：岡山県吉備中央町民で2022年1月以降に出産または妊娠された方。 ウイラバアプリ対象：吉備中央町在住の全住民。
サービスの規模感	ウイラバサービス：吉備中央町民68名の対象妊産婦のうち、29名（42.6%）の利用登録者
サービスインに関するURL	ウイラバアプリ： https://33681.welovebaby.jp/ プレスリリース（NHK）： https://www3.nhk.or.jp/lnews/okayama/20220929/4020014240.html ウイラバ紹介イラスト動画： https://vimeo.com/750571433/06215eb629
4月以降の運用体制	運用管理：そなえ株式会社（*東京海上日動と包括連携協定を締結し、予約システムをサポート）

サービス実装報告③ : 「母子健康手帳のデジタル化サービス」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	利用者登録数と継続率	種別	アウトプット	単位	人・%
KPIの概要、測定方法	ウイラバ利用者データより利用者登録数とサーバデータから、関連する年齢層の登録率と使用継続率を算出する。				
事業成果等の計測に適する理由	住民の母子保健・医療・健康情報の蓄積を行う入り口としてのシステム確立にむけ、ウイラバ登録・継続利用する人数で利用価値を他覚的に評価。登録数は、興味/期待の指標に、継続率は、有用性の指標とする。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	25人・10%		144人・20%		196人・30%

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	29人・62.1%
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	ウイラバ・サービスの利用促進に繋げるキャンペーン企画や、産婦人科医や助産師による定期開催講座を開催することで、吉備中央町民の子育て世代のお母さん（利用対象者）とオフラインで関わる機会が増加。また、吉備中央町も積極的に企画に関わり、まさに「子育てを地域で支える」体制の一部を構築できたことがKPI達成に繋がったのではないかと考える。

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	ウイラバ利用者の満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	ウイラバを利用する住民の5段階評価満足度の平均値。住民に対してアンケートを実施。				
事業成果等の計測に適する理由	ウイラバを利用し満足した人数が多ければ多いほど、ウイラバが住民に利用価値があると考えられるため。また、アンケートにて、任意で不満な点を記入してもらうことで、ウイラバの改善を図る。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	2.5		3.5		4.5

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	2.72
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	ウイラバ・アプリ面、またサービス面で様々な課題、問題点を利用者から頂戴した。しかし同時に期待の声も多数いただいた。今まで十分なケアがなかった母子健康・子育ての世界で新しい風が吹こうとしていることへの期待の声も多数あった。半数以上の利用者が「ウイラバを他のママ友にオススメしたい」と答えた。色々な改善点を元に、町全体でウイラバを良くしていく流れを作ることによって、吉備中央町での利用価値が高まり、ウイラバ利用登録者の増加、そして満足度が上がっていくのではないかと推測される。

● データ連携基盤との接続状況

①令和5年3月に接続済

● 接続する具体的なデータについて

● インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

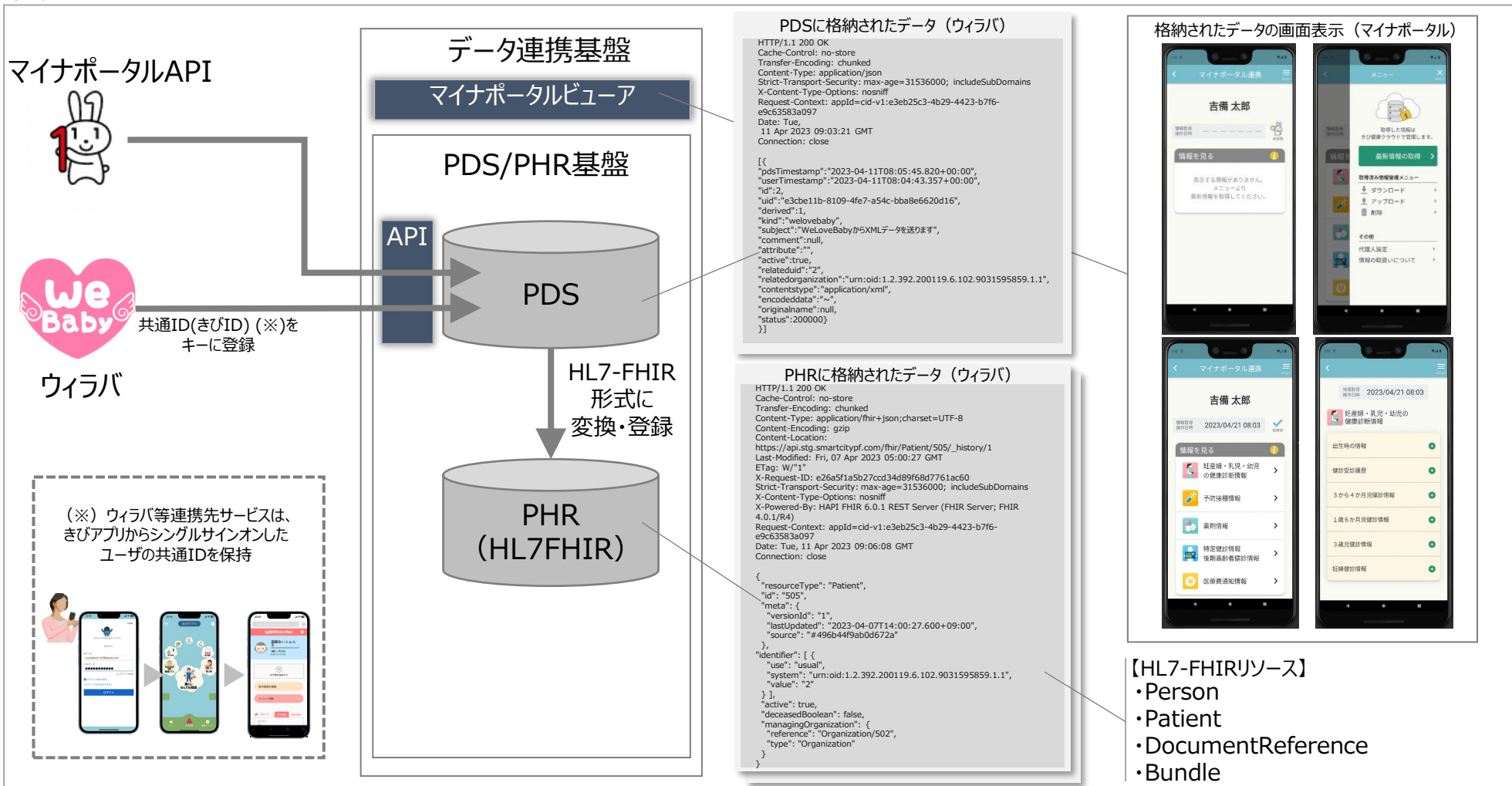
接続方法	OpenIDConnect
接続しているデータ種別	共通ID（データ連携基盤のユーザ識別子）、メールアドレス、氏名、生年月日、性別

● アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	PDSで定義されたインターフェースを用いたAPI接続 （サービス側の負担軽減のため基盤側でHL7FHIRに変換）
接続しているデータ種別	母子健康手帳に関するデータ （妊婦自身の記録、早期新生児期生後1週間以内の経過、検査の記録等）

サービス実装報告④：「PHR基盤サービス」

PDS/PHR基盤は、母子保健をはじめ、各種医療・健康等情報のデータを蓄積するための基盤であり、データの登録・更新・削除用のAPIを連携サービス事業者向けに公開・提供している。データを蓄積する領域としてPDS領域とPHR領域があり、連携サービス事業者がPDS領域にデータを登録することで、PDS/PHR基盤がHL7FHIR形式に変換し、PHR領域に格納する仕組みとなっており、各サービスからの利用、蓄積されたデータの分析等に活用する。

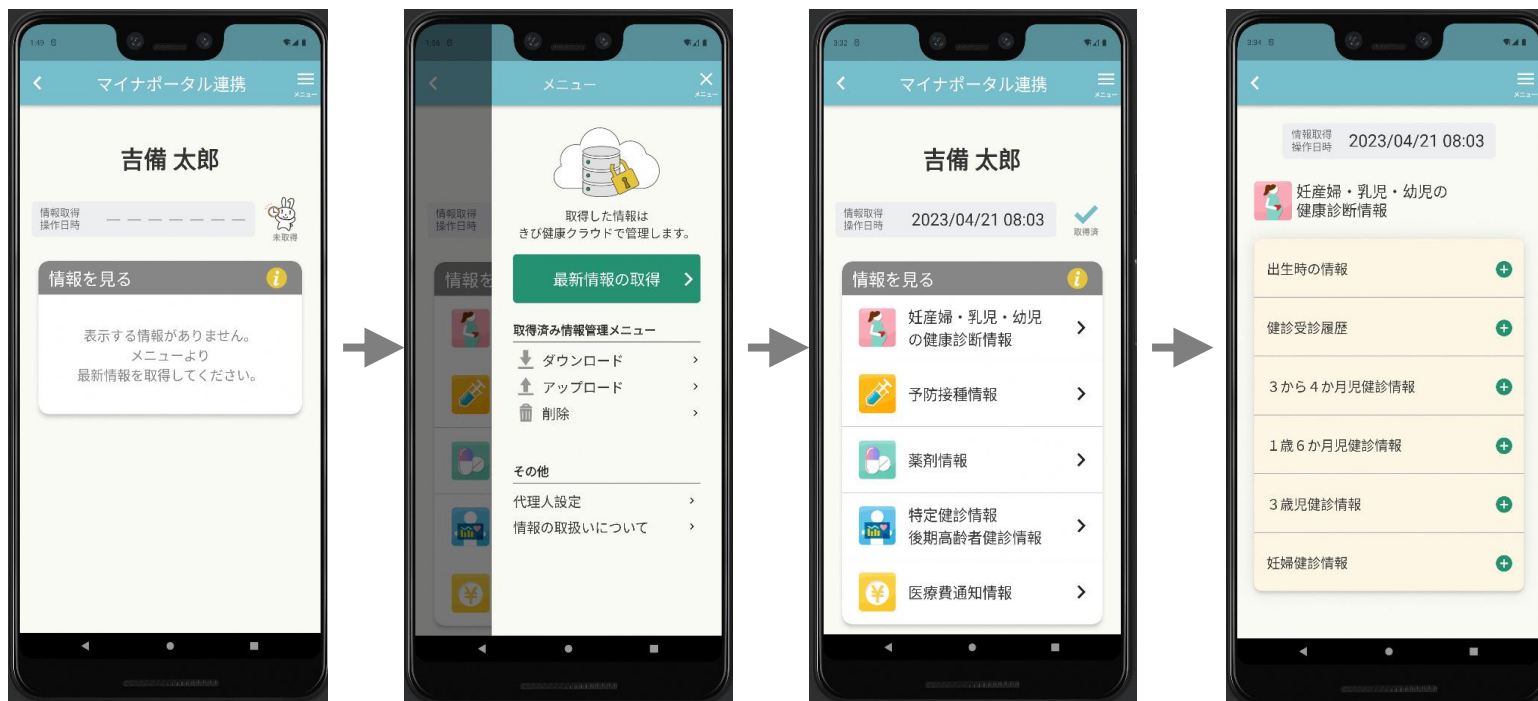


● サービスの実装状況

開発・実装体制	富士通Japan株式会社
実装ステータス	・令和5年3月に実装済 ※マイナポータルAPI連携については開発済・デジタル庁の検証をへて7月実装・リリース予定
サービスの提供範囲	吉備中央町
サービスのターゲット	吉備中央町で実装されるサービスに対して、住民の同意に基づき健康医療情報を提供する。 ※令和5年度事業では対象データを拡大するとともに救急搬送、遠隔診療への活用を行う。
サービスの規模感	PDS/PHR基盤への接続数：2サービス（マイナポータル、ウイラバ）
サービスインに関するURL	—
4月以降の運用体制	富士通Japan株式会社

● サービスの実装状況（補足）

<p>サービス実装が遅延している理由</p>	<p>マイナポータルAPI連携の部分について、API利用申請が12月になって許可された点、およびAPI仕様が当初想定よりも要件が多く工数が膨らんだことによる。現時点では開発は完了し、テストを実施している。</p>
<p>リカバリー策</p>	<p>デジタル庁の検証等の対応をしっかりと対応した上で7月を目途に住民へのサービスリリースを予定している。</p>



サービス実装報告④ : 「PHR基盤サービス」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	利用者登録率	種別	アウトカム	単位	人（%）
KPIの概要、測定方法	利用者データより利用者登録数を測定し、人口から登録率を算出する。 （母数として、妊産婦数100人に加え、年間新たな妊産婦40人の増加を見込む）				
事業成果等の計測に適する理由	母子保健を中心に住民の医療・健康情報の蓄積基盤として構築するため。				
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
25%（登録者数50人、母数200人）		60%（登録者数144人、母数240人）		70%（登録者数196人、母数280人）	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	42.6%（登録者数29人、母数68人）
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	今年度は連携対象をウイラバとしていたため、ウイラバの活用施策が効果を発揮した。
リカバリー策	※令和5年度は、連携サービスの追加を想定しているため、KPIの見直しとともに、ログ等から登録状況を定期的にウォッチし、必要に応じた改善策を実施する。

● データ連携基盤との接続状況

①令和5年3月に接続済

※PDS/PHR基盤はデータ連携基盤の構成要素の1つ

データ連携基盤のOpenIDConnectの仕組みと、HL7FHIRを組み合わせることでSMART on FHIRの形態をとっている。

● 接続する具体的なデータについて

● インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	OpenIDConnect
接続しているデータ種別	共通ID（データ連携基盤のユーザ識別子）、メールアドレス、氏名、生年月日、性別

● アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	PDSで定義されたインターフェースを用いたAPI接続 （サービス側の負担軽減のため基盤側でHL7FHIRに変換）
接続しているデータ種別	母子健康手帳に関するデータ（妊婦自身の記録、早期新生児期生後1週間以内の経過、検査の記録等）、マイナポータルAPI（自己情報：妊産婦乳幼児健診・予防接種情報）に関する情報

サービス実装報告⑤：「予防歯科クラウドサービス」

予防歯科クラウドサービスを利用し、児童の歯科健診結果や歯科医院での治療内容を、児童・保護者や歯科医院・学校側で情報参照できるサービスです。
情報共有を行うことにより、児童の口腔ケアをサポートします。

①保護者による利用登録



小学校で配布されたリーフレットをもとにスマホで登録します。

②学校側の追加情報入力

・保護者が登録した情報入力（患者番号の付番）を行います。

③学校歯科健診の情報を学校側でアップロード

・学校健診で記入したシート（紙）をPDFにしてアップロードします。

④歯科医院（大森歯科医院）治療内容の登録

・治療内容の登録を行います。
※豊野小学校に複数の歯科医院を登録する場合
・歯科医院では、他の歯科医院の患者の情報が参照可能となります。



吉備アプリからシングルサインオンが可能
(ID/パスワードを入力せず、サインインが出来ます)



大森歯科医院で登録した情報が保護者や生徒からスマホで見れます。

(参照できる情報の例)



● サービスの実装状況

開発・実装体制	富士通Japan株式会社
実装ステータス	令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	岡山県加賀郡吉備中央町
サービスのターゲット	豊野小学校の児童
サービスの規模感	豊野小学校、大森歯科医院
サービスインに関するURL	https://keep28-cloud.com/
4月以降の運用体制	富士通Japan株式会社

サービス実装報告⑤ : 「予防歯科クラウドサービス」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	利用者満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	5段階評価満足度の平均値。関係者に対してアンケートを実施。				
事業成果等の計測に適する理由	住民向け医療サービスの有用性（主観、定性データ）を測定できるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	2.5		3.5		4.5

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	利用者満足度
達成ステータス	KPI未測定
上記に関する理由	豊野小学校の学校検診が5月末に行われる為、それ以降に測定予定
リカバリー策	学校検診が始まる前に、豊野小学校にてリーフレットの配布を行う

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	利用者数	種別	アウトカム	単位	人（%）
KPIの概要、測定方法		豊野小学校での学校歯科健診に適用。学校歯科健診の児童数・関係者をもとに算出。2024年度以降は豊野小学校以外にも展開を検討。			
事業成果等の計測に適する理由		歯科が少ない地域環境の中で、学校における歯科DXを展開することで、児童の健康の見守りを促進するため。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
20		60		200	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	利用者数
達成ステータス	KPI未測定
上記に関する理由	豊野小学校の学校検診が5月末に行われる為、それ以降に測定予定
リカバリー策	学校検診が始まる前に、豊野小学校にてリーフレットの配布を行う

● データ連携基盤との接続状況

①令和5年3月に接続済

● 接続する具体的なデータについて

- インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	OpenIDConnect
接続しているデータ種別	共通ID（データ連携基盤のユーザ識別子）、メールアドレス、氏名、生年月日、性別

- アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	
接続しているデータ種別	

サービス実装報告⑥：「孤立・孤独予防サービス」

高齢者のバイタルを定期的に住民向けアプリを經由して把握をし、普段とは異なる傾向が生じた場合は連絡又は往訪をし健康状態の確認をする仕組みを構築。得られたバイタルデータはPHRデータとして有効活用する。
また、地域加盟店と協働、高齢者の見守りを兼ねた買い物支援サービスを実装。買い物支援の時、それまで計測されたバイタルデータを基に普段の生活を対面にてヒアリングし、実際の生活とバイタル情報を結び付け、より詳細な健康および精神状態の把握をする。

1 トップ画面

ボタンを押すと
コールセンターに
繋がります
(8:00~17:00)

健康づくり
アプリを使う

コールセンター

アプリを使う

夜間(17:00~8:00)は
緊急連絡表示に変更

2 ホーム画面

アプリを使って問題解決

健康づくり
毎日の健康を
簡単にチェック!
健康体操もできます

見守りメール

暮らし
なんでも相談

テレビ電話・アプリで
家の片付け、草取りなど、
お家の困りごとを相談

なんでもし隊

買い物
テレビ電話・アプリで
日用品・食料品の
買い物を注文!

ご自宅までお届け

・地域の商店と連携し、
「なつかしの商店街」を再現した、
バーチャル商店街を連携予定
・ペリーくっどポイントと
連携予定

使い方など、
困ったことがあれば
すぐにコールセンターへ!

● サービスの実装状況

開発・実装体制	吉備中央町インクルーシブスクエア
実装ステータス	令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	吉備中央町内
サービスのターゲット	町内の高齢者
サービスの規模感	65歳以上の高齢者数4,600人
サービスインに関するURL	https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/digital-denen/11954.html
4月以降の運用体制	吉備中央町インクルーシブスクエア

サービス実装報告⑥：「孤立・孤独予防サービス」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	バイタル計測アプリケーションの利用率	種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法	稼働実績からカウント				
事業成果等の計測に適する理由	高齢者のバイタルを定期的に遠隔で把握をし、普段とは異なる傾向が生じた場合は連絡又は往訪をし健康状態の確認をする。得られたバイタルデータはPHRデータとして有効活用できるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	30%		50%		70%

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	42%
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	実際に使用した住民へのアンケートでは、特に高齢ユーザーは自身の健康維持に対する意識も高く、「継続して使いたい」という声が聞かれた。
リカバリー策	利用に関しては「測定が難しい」など、機能面での改善点も上がったので、利用者を増やすためにも、ヒアリングを生かしてシステム改善を図っていきたい。

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	買い物支援の利用者数	種別	アウトカム	単位	人
KPIの概要、測定方法	稼働実績からカウント				
事業成果等の計測に適する理由	買い物支援は生活に密接に関わり、高齢化が進んだ地域では特に必要不可欠である。また、地域商店（加盟店）と協働することで持続可能なモデル作りにつながる。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	500人		2500人		5000人

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	559人
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	
リカバリー策	来年度、商工会や地域商店との連携を広げ、「バーチャル商店街」事業を予定している。開発に際しては利用者の要望もしっかり取り入れることで、利用者数だけでなく、満足度も上げていくための施策を進めていく。

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	利用者満足度 (孤立・孤独予防サービス)	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法		5段階評価満足度の平均値。関係者に対してアンケートを実施。			
事業成果等の計測に適する理由		孤立孤独サービスの有用性（主観、定性）を測定できるため。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
2.5		3.5		4.5	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	2.62
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	アンケート実施時には「スマホで簡単に見れるのは面白い」「高齢になるとやはり健康が気になるので、使いたい」といった好意的な意見があった。
リカバリー策	「上手く計測できないことがある」「スマホを持ち続けるのが難しい」といった要望や課題も意見として上がった。UIを含めた機能改善を引き続き行い、満足度の向上を目指す。

サービス実装報告⑥：「孤立・孤独予防サービス」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	利用者満足度 (買い物支援・見守りサービス)	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	5段階評価満足度の平均値。関係者に対してアンケートを実施。				
事業成果等の計測に適する理由	孤立孤独サービスの有用性（主観、定性）を測定できるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	2.5		3.5		4.5

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	2.67
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	実際に利用した住民からは「とても良い商品がたくさんあって楽しく買い物ができました」「その日のうちに配達してもらえるのも、とても助かる」、といった好意的な意見があった。
リカバリー策	来年度は商工会等とも連携し「バーチャル商店街」事業を予定している。商品選定やサービス構築においては利用者の意見もヒアリングしながら、より良いサービスを構築していきたい。

● データ連携基盤との接続状況

①令和5年3月に接続済

● 接続する具体的なデータについて

- インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	OpenIDConnect
接続しているデータ種別	共通ID、メールアドレス、氏名、生年月日、性別

- アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	R4年度補正デジタル田園都市国家構想推進交付金事業で実装予定
接続しているデータ種別	バイタル、連絡先などを想定

サービス実装報告⑦：「データ連携基盤サービス」

データ連携基盤サービスは、各連携サービス事業者向けにユーザ管理API、認証APIを公開・提供している。各事業者はAPI仕様に則り、ポータルアプリ「きびアプリ」ではユーザ管理機能およびログイン機能、「ウィラバ」、「オンデマンド交通」、「歯科クラウドサービス」の各連携サービスではシングルサインオン機能が実装されている。



※データ連携基盤の詳細については、データ連携基盤の補足資料で説明

● サービスの実装状況

開発・実装体制	富士通Japan株式会社、株式会社十字屋（きびアプリ）
実装ステータス	①令和4年3月に実装済
サービスの提供範囲	吉備中央町
サービスのターゲット	以下の各事業領域におけるサービス利用者がターゲット（★：OIDCによるSSO対象、☆きびアプリ内に実装） 事業領域B：母子手帳アプリウィラバ★、歯科クラウドサービス★ 事業領域C：孤立・孤独予防サービス☆、買い物支援サービス☆、オンデマンド交通サービス★
サービスの規模感	人口の約1%にあたる115人が利用中（令和4年3月末時点）
サービスインに関するURL	https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/degital-denen/11954.html きびアプリ ・令和5年3月29日：きびアプリ運用開始【山陽新聞】<外部リンク>
4月以降の運用体制	富士通Japan株式会社、株式会社十字屋（きびアプリ）

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	全世代の利用者登録数 (人口に占める利用者登録率)	種別	アウトカム	単位	人 (%)
KPIの概要、測定方法	利用者データより利用者登録数を測定し、人口から登録率を算出する。				
事業成果等の計測に適する理由	住民の、母子保健・医療・福祉等との双方向コミュニケーションのための基盤としてサービス構築するため。(吉備中央町の人口10,500人を母数とする)				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	105人 (1%)		1,050 (10%)		3,150 (30%)

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	115人
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	利用者登録数は、115人と目標を達成することができた。本測定期間で、個別の家庭訪問による丁寧な利用者登録の推進活動（試行運用）が、スマホアプリが苦手な方や高齢者にとっての、文字入力等の高いハードル要素がありつつも、KPIを達成できた理由と考える。年代別の人数をみると、男性・女性ともに10代～30代を40代以降が大幅に上回っている。これは、試行運用において、高齢者向けサービス（センシング機能）や忙しい世代向けサービス（買い物支援）等を中心に試してもらうために、利用者候補を意識的に選定したことに起因していると思われる。

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	65歳以上利用者登録数 (母数に占める利用者登録率)	種別	アウトカム	単位	人 (%)
KPIの概要、測定方法	利用者データより利用者登録数を測定し、人口から登録率を算出する。				
事業成果等の計測に適する理由	住民の、母子保健・医療・福祉等との双方向コミュニケーションのための基盤としてサービス構築するため。(65歳以上の高齢者数4,600人を母数とする)				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	46人 (1%)		460 (10%)		1,380 (30%)

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	49人
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	65歳以上利用者登録数は、49人と目標を達成することができた。前述の通り、本測定期間で、個別の家庭訪問による丁寧な利用者登録の推進活動（試行運用）が、高齢者にとっての文字入力等の高いハードル要素がありつつも、KPIを達成できた理由と考える。

サービス実装報告⑦ : 「データ連携基盤サービス」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	マンスリーアクティブユーザ数 (定着率)	種別	アウトカム	単位	人（率）
KPIの概要、測定方法		利用者データのアクセスログから利用状況を確認する。			
事業成果等の計測に適する理由		住民の、母子保健・医療・福祉等との双方向コミュニケーションのための基盤としてサービス構築するため。（全世代の利用者登録数の各年度の数値を母数とする）			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
11人（105人の10%）		158（1,050人の15%）		630（3,150人の20%）	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	111人
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	マンスリーアクティブユーザ数について、目標値を大幅に上回った理由について、利用者登録直後にログイン操作が行われることがほとんどであるが、試行運用が開始された3月（利用者登録と測定が同月）に本KPIを測定したため。

● データ連携基盤との接続状況

①令和5年3月に実装済

以下のサービスと接続を行っている。

・きびアプリ（ポータル機能、各種機能）・ウイラバ（デジタル母子健康手帳）・歯科クラウド・オンデマンド交通

● 接続する具体的なデータについて

● インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

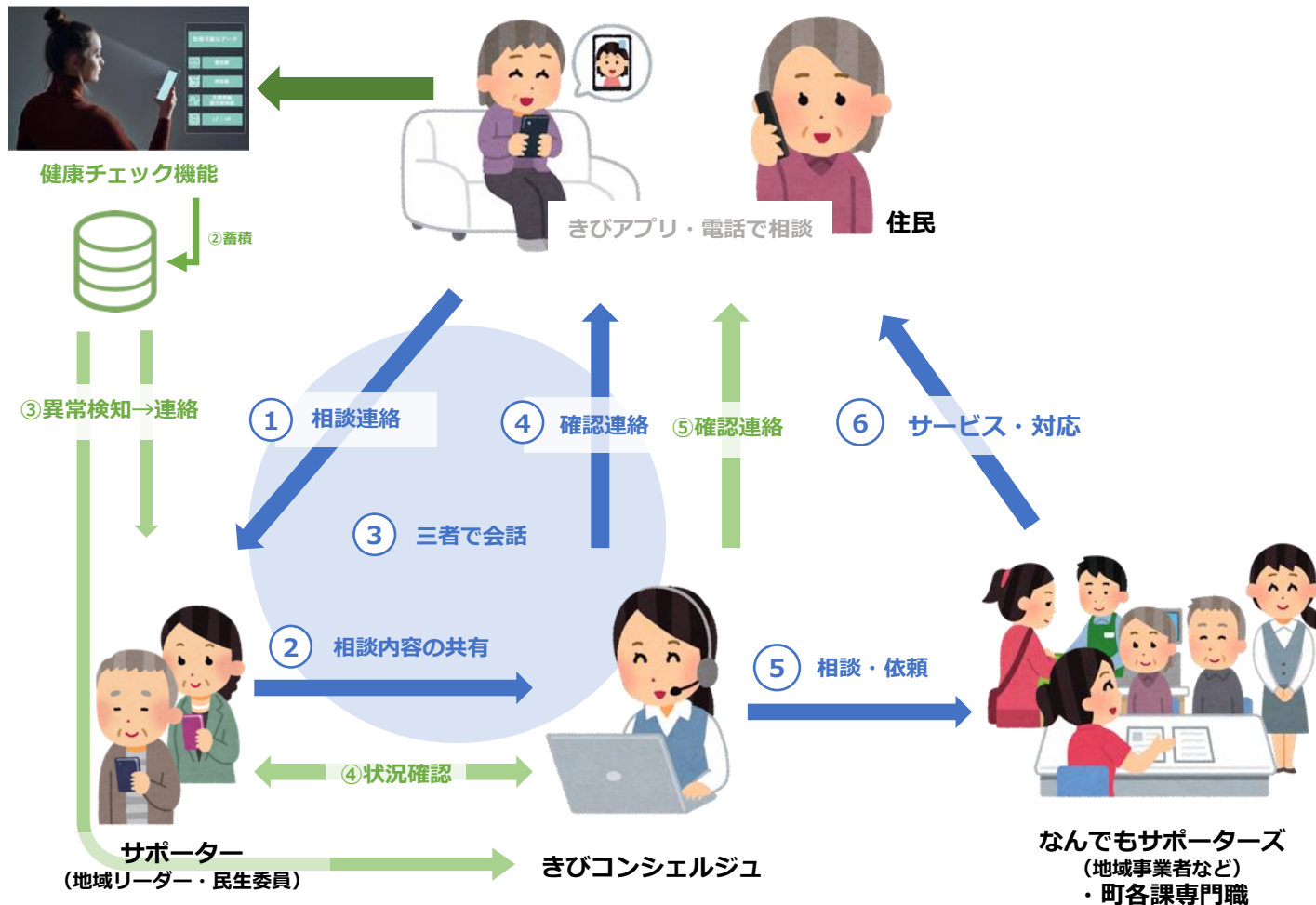
接続方法	OpenIDConnectおよびAPI接続 (ポータルであるきびアプリは管理機能をAPI接続で活用)
接続しているデータ種別	共通ID（データ連携基盤のユーザ識別子）、メールアドレス、氏名、生年月日、性別 (シングルサインオン対象：きびアプリ、ウイラバ、歯科クラウド、オンデマンド交通)

● アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	母子健康手帳に関するデータ（妊婦自身の記録、早期新生児期生後1週間以内の経過、検査の記録等）、マイナポータルAPI（自己情報：妊産婦乳幼児健診・予防接種情報）に関する情報

サービス実装報告⑧：「きびコンシェルジュなんでもサポーターズ」

生活相談の受付窓口「きびコンシェルジュコールセンター」を新設。合わせて遠隔で相談を受けるため、住民向けのポータルアプリ「きびアプリ」を活用し、地域企業と連携して住民の利用促進を実施する。さらに住民からの声を反映し、より住民満足度を上げるための来年度以降の事業・システム改修等を企画する。



● サービスの実装状況

開発・実装体制	吉備中央町インクルーシブスクエア
実装ステータス	令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	吉備中央町内
サービスのターゲット	高齢者を中心とした町内住民
サービスの規模感	65歳以上の高齢者数4,600人
サービスインに関するURL	https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/degital-denen/11954.html
4月以降の運用体制	吉備中央町インクルーシブスクエア

サービス実装報告⑧ : 「きびコンシェルジュなんでもサポーターズ」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	きびコンシェルジュなんでもサポーターズ相談数（アプリ経由）	種別	アウトカム	単位	件
KPIの概要、測定方法	きびコンシェルジュなんでもサポーターズのアプリ経由で生活相談を受けた件数をカウント				
事業成果等の計測に適する理由	集落が分散しているため、直接のサポートが難しい中山間地域において、デジタルデバイスを利用した生活支援の仕組みは必須であるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	50		700		2,100

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	51
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	「草刈り」「エアコン掃除」など、これまで地域事業者の便利業の業務で受けてきた依頼を基にカテゴリの優先度を検討・開発をしたが、実際の相談内容を見てみると、「部屋の掃除」「料理代行」「大正琴のチューニング」など、これまでに依頼がなかった相談も入ってきていた。
リカバリー策	よりたくさんの住民に利用していただくためにはこういった利用者の傾向も考慮しながら、システムに反映させつつ、また、そういった相談に対応できるサポーターの獲得も必要となる。

サービス実装報告⑧ : 「きびコンシェルジュなんでもサポーターズ」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	きびコンシェルジュなんでもサポーターズ相談数（窓口・電話）	種別	アウトカム	単位	件
KPIの概要、測定方法	きびコンシェルジュなんでもサポーターズの窓口・電話で生活相談を受けた件数をカウント				
事業成果等の計測に適する理由	アナログでの相談窓口も並行して稼働することで、住民からの相談事をデータベース化、データ連携基盤とつなぐことで地域性のある 個別の対応リスク予測を実施する。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	50		300		900

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	61
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	3月の試行運用開始から、窓口・通常回線での相談を受付、一部サロン等でご案内をしたところ、相談件数が増えた。
リカバリー策	今後、件数が増加することを想定すると、きびアプリ推進委員や地域サポーターも増員し、丁寧に対応できる体制を作る

サービス実装報告⑧ : 「きびコンシェルジュなんでもサポーターズ」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	稼働時の利用者満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	サポート後のアンケート（5段階でポジティブ2段階の割合を計測）				
事業成果等の計測に適する理由	住民や利用者の意見やニーズを踏まえて、アジャイルにサービスを改善するための主観指標としてアンケートを実施・計測する。2年目以降のWell-being指標の測定につなげる。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	2.5		3.5		4.5

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	3.24
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	丁寧に一軒一軒サポートする、という姿勢で行ってきたため、サポート自体は比較的高評価であったが、アプリの登録に時間がかかるなどの理由で評価を下げる部分があった。
リカバリー策	来年度利用者を増やしていくにあたって、反比例してコンシェルジュがサポートできる時間も減ることが考えられる。サポートの品質を落とさないような体制づくりが必須

● データ連携基盤との接続状況

①令和5年3月に接続済

● 接続する具体的なデータについて

- インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	OpenIDConnect
接続しているデータ種別	共通ID、メールアドレス、氏名、生年月日、性別

- アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

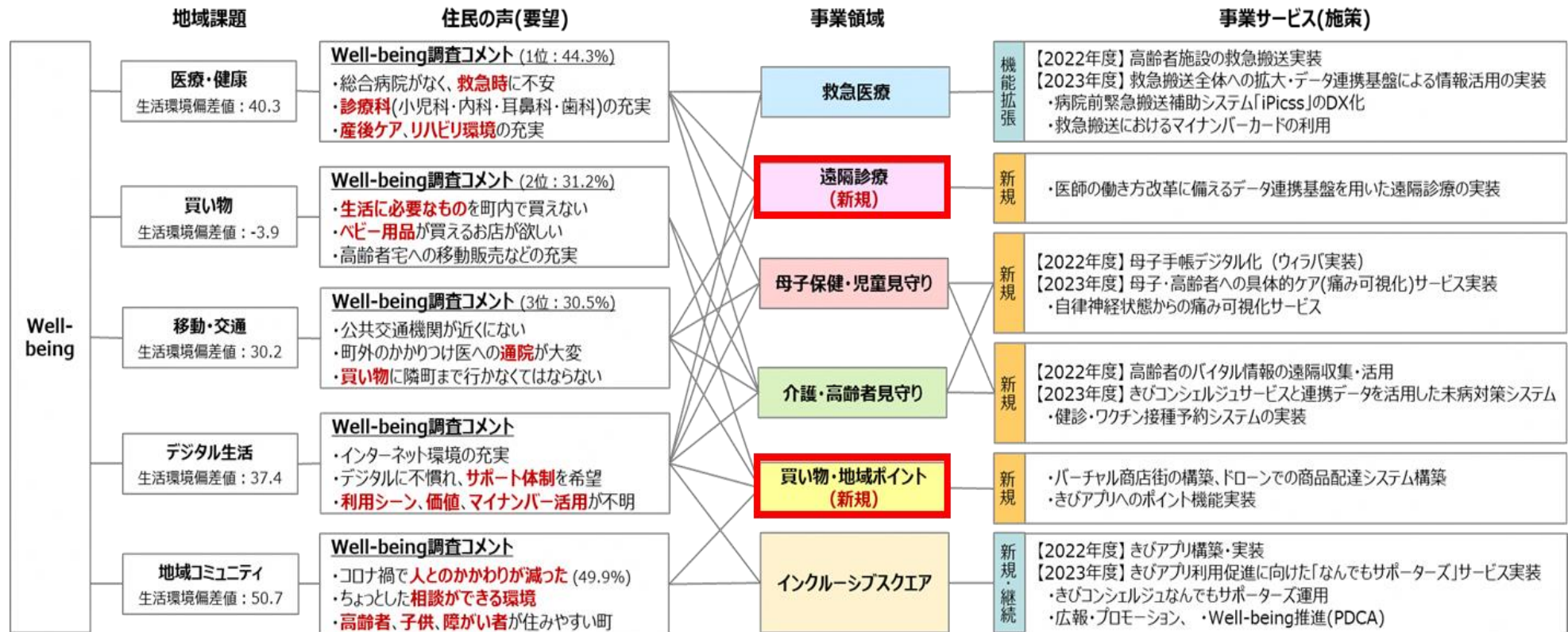
接続方法	R4年度補正デジタル田園都市国家構想推進交付金事業で実装予定
接続しているデータ種別	連絡先などを想定

3.まとめ



今後の事業展望について

R3補正デジ田交付金採択事業「誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティの創生」の継続事業として5領域の機能拡張を図る。また、**新規事業領域として「遠隔診療」、「買い物・地域ポイント」を追加し、医療事業の充実とともに住民の利便性向上を図り、地域全体のWell-being向上を目指していきます。**



※生活環境偏差値：Well-Being指標に基づき、オープンデータから地域の生活環境を偏差値で表したものを示す



デジタル田園都市国家構想

DIGIDEN

4 .補足資料



事業執行にあたり苦勞した点・今後の課題について（質疑応答参考）

事業設計	<ul style="list-style-type: none"> 前例のない事業・構想だったため、庁舎内外の多数の関係者の取りまとめ、および意識の共有・合意形成に苦勞した。
仕様書検討・調達・契約	<ul style="list-style-type: none"> 複数の先端的サービスを提供できる事業者を募集する方法として、公募型プロポーザル方式として実施したが、提案者数は少数だった。しかし、実施体制を整備したうえで申請したデジ田事業に関する調達のため、やむを得ない側面はあると考える。
サービス・システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> 複数サービスの連携は、関係者の合意形成や各サービスの形が見えてからの作業になるので、どうしても納期がずれ込み遅れがちになる。
テスト運用・サービス開始	<ul style="list-style-type: none"> 先端的サービスを町民にとって利用しやすいようにカスタマイズする作業に時間がかかった。また、サービス開始にあたっては、地元企業と連携を行い、時間をかけて丁寧な住民説明を行った。
継続的なサービス提供	<ul style="list-style-type: none"> 事業を継続的に提供させるためには事業の収益化が不可欠だが、料金を支払ってまで利用していただくサービスを検討することは大変だった。本町では、社会保障領域のテーマも多いため、R5年度の事業では、地域を支える人々の働き方改革なども支援し、その効果測定を実施する予定。
委託事業者・関係団体等との調整全般	<ul style="list-style-type: none"> 複数の事業者と連携していく中で方向性を同じにしていくことはどの世界でも共通で容易ではない。本町では、1年前から関係事業者との間で推進協議会を発足し、時間をかけて検討し、調整して行った。
その他	

● データ連携基盤に関する費用

項目	年度	予算 (補助金・交付金の所管を括弧内に記載)	コスト内訳 (補足があれば括弧内に記載)	金額
イニシャル コスト	令和4年度	令和3年度補正 デジタル田園都市国家構想 推進交付金 (内閣府)	データ連携基盤サービス構築 (基本機能・住民向け機能)	47,487 千円
	令和4年度	令和3年度補正 デジタル田園都市国家構想 推進交付金 (内閣府)	PHR基盤構築	48,400 千円
ランニング コスト	令和5年度	市の単費	データ連携基盤・PHR基盤 利用料	3,557 千円/年

● データ連携基盤の開発委託事業者について

事業者名	富士通Japan株式会社(有限責任事業組合吉備中央町インクルーシブスクエアから再委託)
------	---

データ連携基盤のシステム構成図

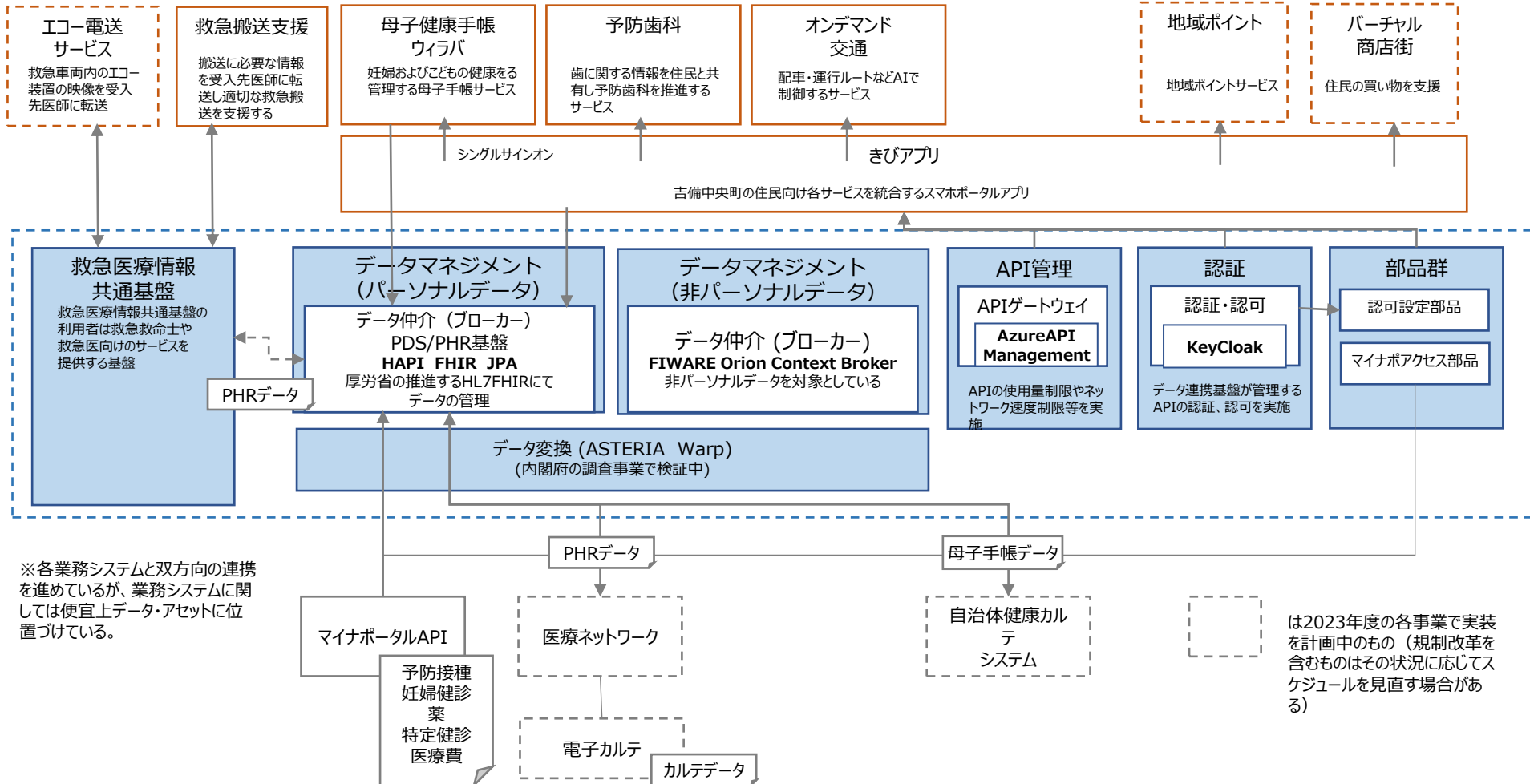
凡例

→ データの流れ

サービス

データ連携基盤

データ・アセット



※各業務システムと双方向の連携を進めているが、業務システムに関しては便宜上データ・アセットに位置づけている。

は2023年度の各事業で実装を計画中のもの（規制改革を含むものはその状況に応じてスケジュールを見直す場合がある）

データ連携により創出される付加価値について

サービス	分野	データ	創出される付加価値	年度末時点の実施状況
A-1.エコー装置による遠隔的な情報収集・伝送サービス (iPicssの機能拡大)	⑧健康・医療 ⑪教育	・救急搬送車両内情報 ・救急搬送情報	これまでバラバラに蓄積・管理されていた救急情報を統合し、医療機関とデータ連携することで、救急搬送業務の軽減や搬送先での診療開始の早期化、結果としてのアウトカム向上だけでなく、メディカルコントロールによる適切な指示と搬送先選定につながる。(将来的には病院運営や学会等における研究データになりうる)	救急搬送車両内情報に関してはエコーに関する規制改革に関する進展がみられないため内閣府の調査事業にて医療機関のデータと連携することでその効果を確認した。救急搬送情報に関しては高齢者施設での利用も開始し、当初想定していた医療機関との連携を実施した。
A-2.施設間救急搬送支援サービス (iPicss(アイピクス)の運用拡大)	⑧健康・医療 ⑭コロナ対策	・救急搬送車両内情報 (高齢者施設) ・救急搬送情報 (高齢者施設)		
B-1.母子健康手帳のデジタル化サービス (ウイラバ WeLoveBaby)	⑤観光・地域活性化 ⑧健康・医療 ⑫行政	・母子健康手帳情報	母子保健、予防歯科、予防接種等のPHR情報および自治体業務システム情報を組み合わせて「予測モデルを用いた児童見守りサービス」を構築し、ハイリスク者の抽出と介入支援を行う。(2023年度検討予定)	母子健康手帳、予防歯科クラウドサービスとOpenIDConnectによるSSOを実施、ID統合を行った。また母子健康手帳、マイナポータルAPI情報との連携を実装した。2023年度はこれら情報を活用して遠隔診療や救急での利用を計画している。「予測モデルを用いた児童見守りサービス」に関しては、残念ながらご家庭内の「令和5年度ごどもデータ連携事象事業」に採択されなかったため、計画の見直しを行う。
B-4.住民向け医療サービス (b.予防歯科クラウドサービス)	⑧健康・医療 ⑪教育	・口腔ケア情報		
B-2.PHR基盤サービス	⑧健康・医療 ⑫行政	・マイナポータル自己情報取得APIで取得できる情報 (健康・医療中心) ・マイナポータル医療情報取得APIで取得できる情報		
C-1.孤立・孤独予防サービス (a.孤立・孤独予防サービス b.買い物支援・見守りサービス)	②セキュリティ・見守り ⑦物流 ⑧健康・医療 ⑬支払い	・バイタル計測情報	これまでバラバラに蓄積・管理されていた健診情報、バイタル計測情報、生活相談情報をデータ連携させることで、声掛け等見守りを必要とする高齢者を抽出し、見守り支援をおこなう。移動サービスと連携することで高齢者の移動を効率化するとともに、生活物資・医薬品輸送につなげていく。(2023年度検討予定) きびコンシェルジュなんでもサポーターズが高齢者や子育て世代など多世代住民の困りごとを集約して、各支援センター間でデータを共有し、よりニーズに合った地域包括ケアを実現する。住民、そして地域企業の活性化を含めた持続可能かつ誰一人取り残さない包括的な基盤を構築する。	きびコンシェルジュなんでもサポーターズにてサポートすることで高齢者のバイタル測定を開始。またきびアプリ (バイタル測定、生活相談内容、相談援助情報)、オンデマンド交通とOpenIDConnectによるSSOを実施、ID統合を行った。2023年度はバイタル情報を中心に、遠隔診療、救急での利用を計画している。また2023年度では既存の地域ポイントを連携サービスに加える計画でありより地域企業の活性化を含めた持続可能かつ誰一人取り残さない包括的な基盤の構築を目指す。
C-3.移動サービス (デジ田Type1で2023年度稼働予定)	⑥交通・モビリティ ⑦物流	・予約情報 ・実績情報		
E-1.きびコンシェルジュなんでもサポーターズ	②セキュリティ・見守り ④都市計画・整備 ⑤観光・地域活性化 ⑬支払い	・生活相談内容 ・相談援助情報		

オープンデータについて

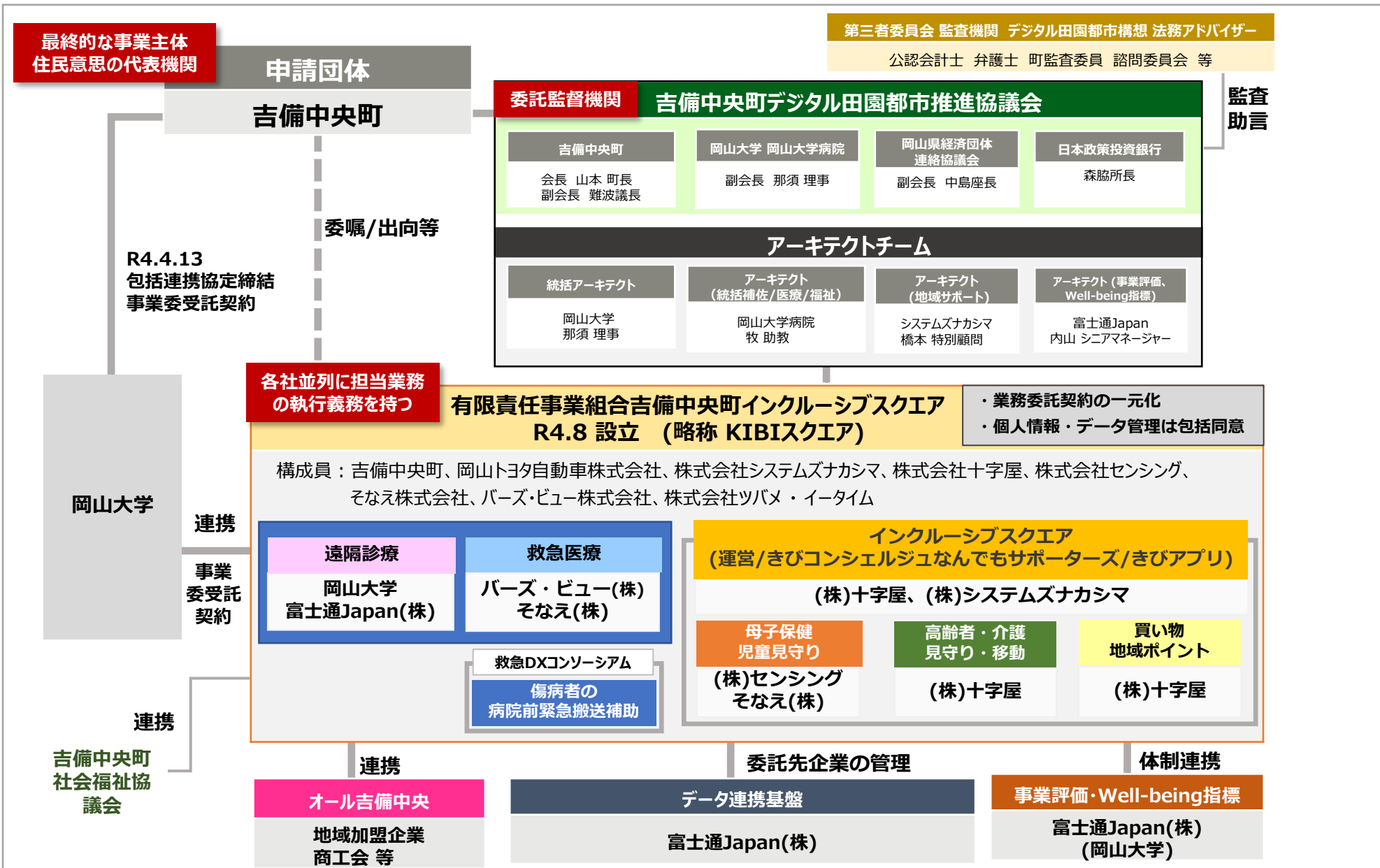
吉備中央町では健康医療情報（機微な個人情報）を中心に扱っているためオープンデータの公開は令和4年度は実施していない。

データ名	提供元	提供元種別	データ種別	データ形式	データ公開方法	公開日

- **公開URL**

令和4年度は公開なし

事業運用体制 ※本事業の調達～実装段階

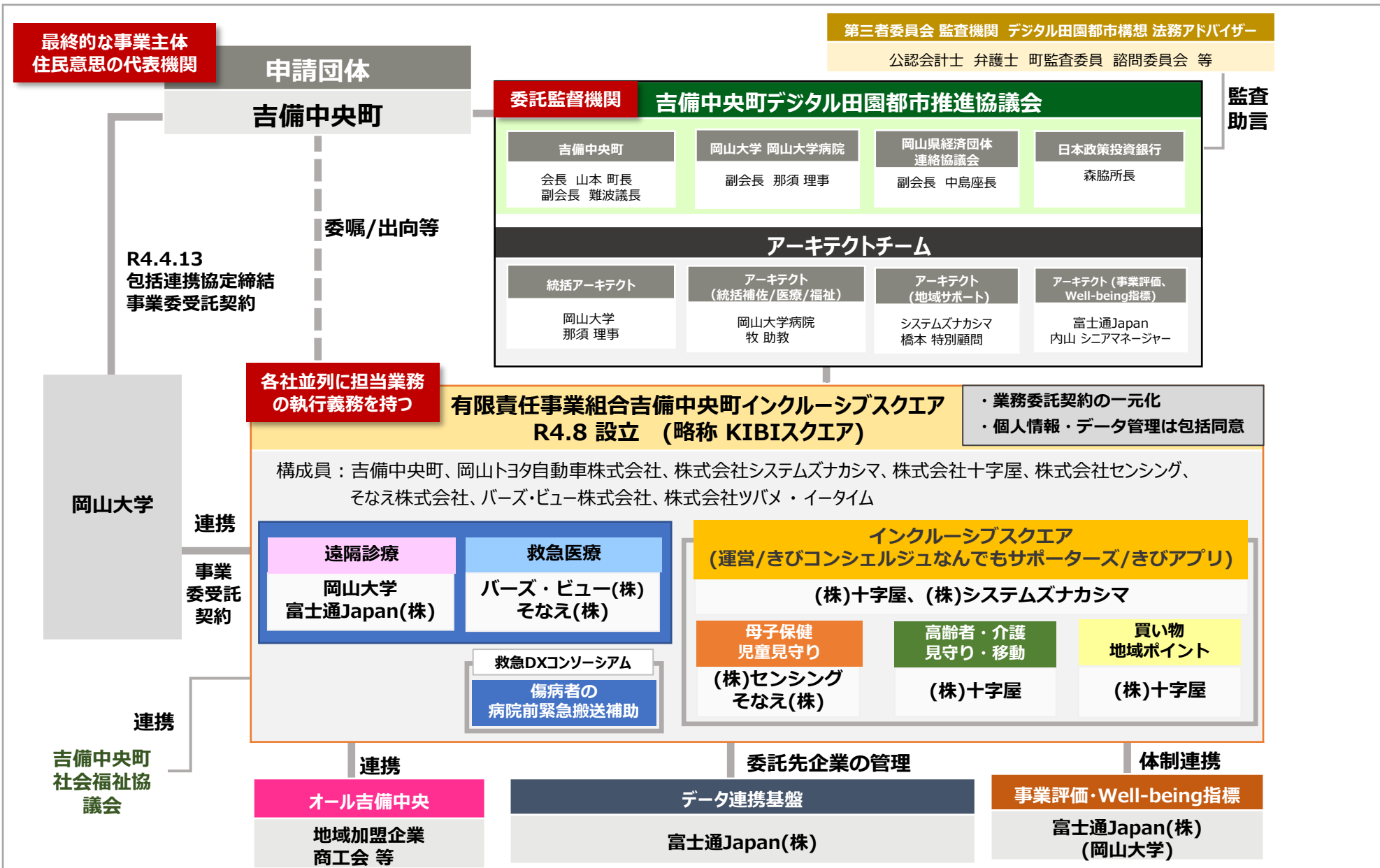


事業運用体制 ※本事業の調達～実装段階

	名称	役割
1	吉備中央町	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施主体 ・事業運営体制責任者
2	吉備中央町 デジタル田園都市 推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・事業委託先団体 ・事業運営責任者 ・利害調整・意思決定（ステアリングコミッティ）
3	アーキテクトチーム	<ul style="list-style-type: none"> ・体制ガバナンス、事業管理
4	国立大学法人岡 山大学/岡山大学 病院	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施主体としての吉備中央町との包括連携協定、ドクターカーによる運用支援、iPicss・ウイラバの後方支援、遠隔診療、診療所開設への対応、全体的な俯瞰的な立場でのアドバイス
5	有限責任事業組 合吉備中央町 インクルーシブスク エア(KIBIスクエア)	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実装・運営組織として令和4年8月に有限事業組合を設立(※：構成員) ・住民参画型で地域の個人を支える多様なステークホルダーらによる一元的窓口支援(きびコンシェルジュなんでもサポーターズ)の実装・運用 ・委託先企業の管理
6	きびコンシェルジュ なんでもサポーター ズ	<ul style="list-style-type: none"> 【E.インクルーシブスクエア】 ・住民の生活相談をアナログ・デジタル双方で受け、包括的な支援の実現
7	救急DXコンソーシ アム	<ul style="list-style-type: none"> 【A.救急医療】 ・救急医療の体制・運用等の協議・意思決定
8	株式会社システム ズナカシマ(※)	<ul style="list-style-type: none"> 【E.インクルーシブスクエア】 ・住民が気軽に集えるインクルーシブ・スクエアのサテライトスペースを提供 ・富士通Japanと連携して提供サービスをサポート

	名称	役割
9	そなえ株式会社 (※)	<ul style="list-style-type: none"> 【A.救急医療、B.母子保健・児童見守り、F.遠隔診療】 ・ウイラバ実装・保守・iPicssによる救急搬送に対応 ・検診・予防接種予約システムに対応 ・データ連携基盤への接続による情報活用の実現、救急搬送時のマイナンバーカード利用、遠隔診療・産後ケア・小児科構築
10	バース・ビュー株式 会社(※)	<ul style="list-style-type: none"> 【A.救急医療】 ・そなえ株式会社との協業しiPicssによる救急搬送に対応 ・データ連携基盤への接続による情報活用の実現、救急搬送時のマイナンバーカード利用
11	J-Group 株式会社十字屋 (※)	<ul style="list-style-type: none"> 【C.介護・高齢者見守り、E.インクルーシブスクエア、G.買い物・地域ポイント】 ・孤立・孤独予防サービス、買い物支援・見守りサービスの実装・保守 ・きびコンシェルジュなんでもサポーターズの拠点、関連システムの実装・保守
12	株式会社センシン グ(※)	<ul style="list-style-type: none"> 【B.母子保健・児童見守り】 ・母子子育て事業へ「痛み計測機能」を付加、孤立・孤独予防サービス、買い物支援・見守りサービスにバイタル情報測定機能の実装・保守
13	富士通Japan株 式会社	<ul style="list-style-type: none"> 【A.救急医療、D.データ連携基盤、E.インクルーシブスクエア、F.遠隔医療】 ・データ連携(PHR)基盤サービス（マイナンバー本人確認機能・医療ネットワーク連携機能）・保守、 ・現場実態の調査・分析 ・事業評価、Well-being指標の活用・運用担当
14	メディカル・デー タ・ビジョン株式 会社	<ul style="list-style-type: none"> 【E.インクルーシブスクエア】 ・データ利活用方法の考案 ・データ利活用方法に応じたデータ収集方法の検討
15	第三者委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・公認会計士・町監査委員・弁護士・司法書士等による1,2,3の監視および助言

事業運用体制 ※令和5年度以降のサービス運用段階



事業運用体制 ※令和5年度以降のサービス運用段階

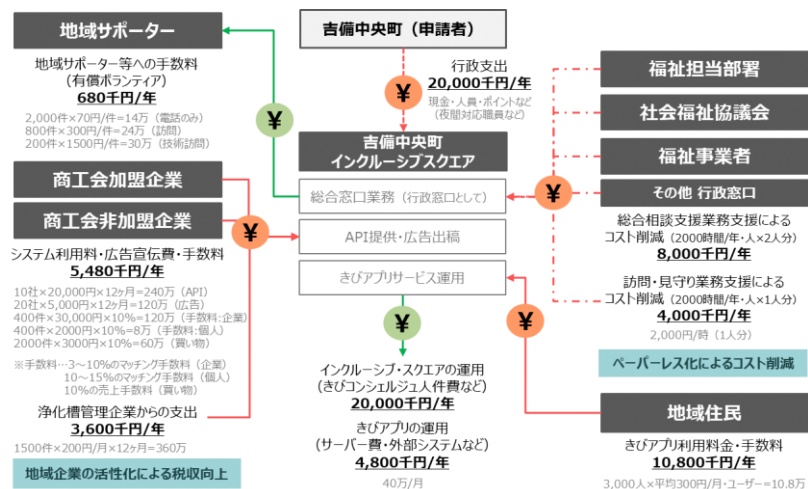
	名称	役割
1	吉備中央町	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施主体 ・事業運営体制責任者
2	吉備中央町 デジタル田園都市 推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・事業委託先団体 ・事業運営責任者 ・利害調整・意思決定（ステアリングコミッティ）
3	アーキテクトチーム	<ul style="list-style-type: none"> ・体制ガバナンス、事業管理
4	国立大学法人岡 山大学/岡山大学 病院	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施主体としての吉備中央町との包括連携協定、ドクターカーによる運用支援、iPicss・ウイラバの後方支援、遠隔診療、診療所開設への対応、全体的な俯瞰的な立場でのアドバイス
5	有限責任事業組 合吉備中央町 インクルーシブスク エア(KIBIスクエア)	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実装・運営組織として令和4年8月に有限事業組合を設立(※：構成員) ・住民参加型で地域の個人を支える多様なステークホルダーらによる一元的窓口支援(きびコンシェルジュなんでもサポーターズ)の実装・運用 ・委託先企業の管理
6	きびコンシェルジュ なんでもサポーター ズ	<ul style="list-style-type: none"> 【E.インクルーシブスクエア】 ・住民の生活相談をアナログ・デジタル双方で受け、包括的な支援の実現
7	救急DXコンソーシ アム	<ul style="list-style-type: none"> 【A.救急医療】 ・救急医療の体制・運用等の協議・意思決定
8	株式会社システム ズナカシマ(※)	<ul style="list-style-type: none"> 【E.インクルーシブスクエア】 ・住民が気軽に集えるインクルーシブ・スクエアのサテライトスペースを提供 ・富士通Japanと連携して提供サービスをサポート

	名称	役割
9	そなえ株式会社 (※)	<ul style="list-style-type: none"> 【A.救急医療、B.母子保健・児童見守り、F.遠隔診療】 ・ウイラバ実装・保守・iPicssによる救急搬送に対応 ・検診・予防接種予約システムに対応 ・データ連携基盤への接続による情報活用の実現、救急搬送時のマイナンバーカード利用、遠隔診療・産後ケア・小児科構築
10	バース・ビュー株式 会社(※)	<ul style="list-style-type: none"> 【A.救急医療】 ・そなえ株式会社との協業しiPicssによる救急搬送に対応 ・データ連携基盤への接続による情報活用の実現、救急搬送時のマイナンバーカード利用
11	J-Group 株式会社十字屋 (※)	<ul style="list-style-type: none"> 【C.介護・高齢者見守り、E.インクルーシブスクエア、G.買い物・地域ポイント】 ・孤立・孤独予防サービス、買い物支援・見守りサービスの実装・保守 ・きびコンシェルジュなんでもサポーターズの拠点、関連システムの実装・保守
12	株式会社センシ ング(※)	<ul style="list-style-type: none"> 【B.母子保健・児童見守り】 ・母子子育て事業へ「痛み計測機能」を付加、孤立・孤独予防サービス、買い物支援・見守りサービスにバイタル情報測定機能の実装・保守
13	富士通Japan株 式会社	<ul style="list-style-type: none"> 【A.救急医療、D.データ連携基盤、E.インクルーシブスクエア、F.遠隔医療】 ・データ連携(PHR)基盤サービス（マイナンバー本人確認機能・医療ネットワーク連携機能）・保守、 ・現場実態の調査・分析 ・事業評価、Well-being指標の活用・運用担当
14	メディカル・デー タ・ビジョン株式 会社	<ul style="list-style-type: none"> 【E.インクルーシブスクエア】 ・データ利活用方法の考案 ・データ利活用方法に応じたデータ収集方法の検討
15	第三者委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・公認会計士・町監査委員・弁護士・司法書士等による1,2,3の監視および助言

事業継続性、自走モデルの確立に向け、事業としての収益確保とともに、業務効率化(コスト削減)という両輪のアプローチにより、地域サービスに関わる全体の収支バランスを向上させる取り組みを実施する。民間企業の事業(投資)活用が望めない中山間地域におけるビジネスモデルの構築を目指す。

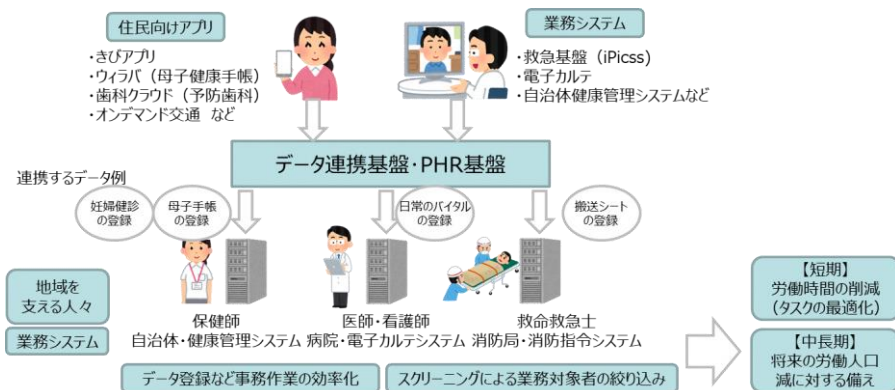
① きびアプリを活用した収益・コスト削減モデル

- ・地域企業・商工会と連携した地域サービスの融合。
- ・既存ポイント事業と連携した利用者還元。
- ・利用シーン拡大による地域アプリの利用促進。
- ・サービス利用料+広告宣伝費による収益確保。
- ・健康サービスの拡張による社会保障費削減。



② 地域を支える人々(行政・医療・介護)の負担軽減による持続可能モデル

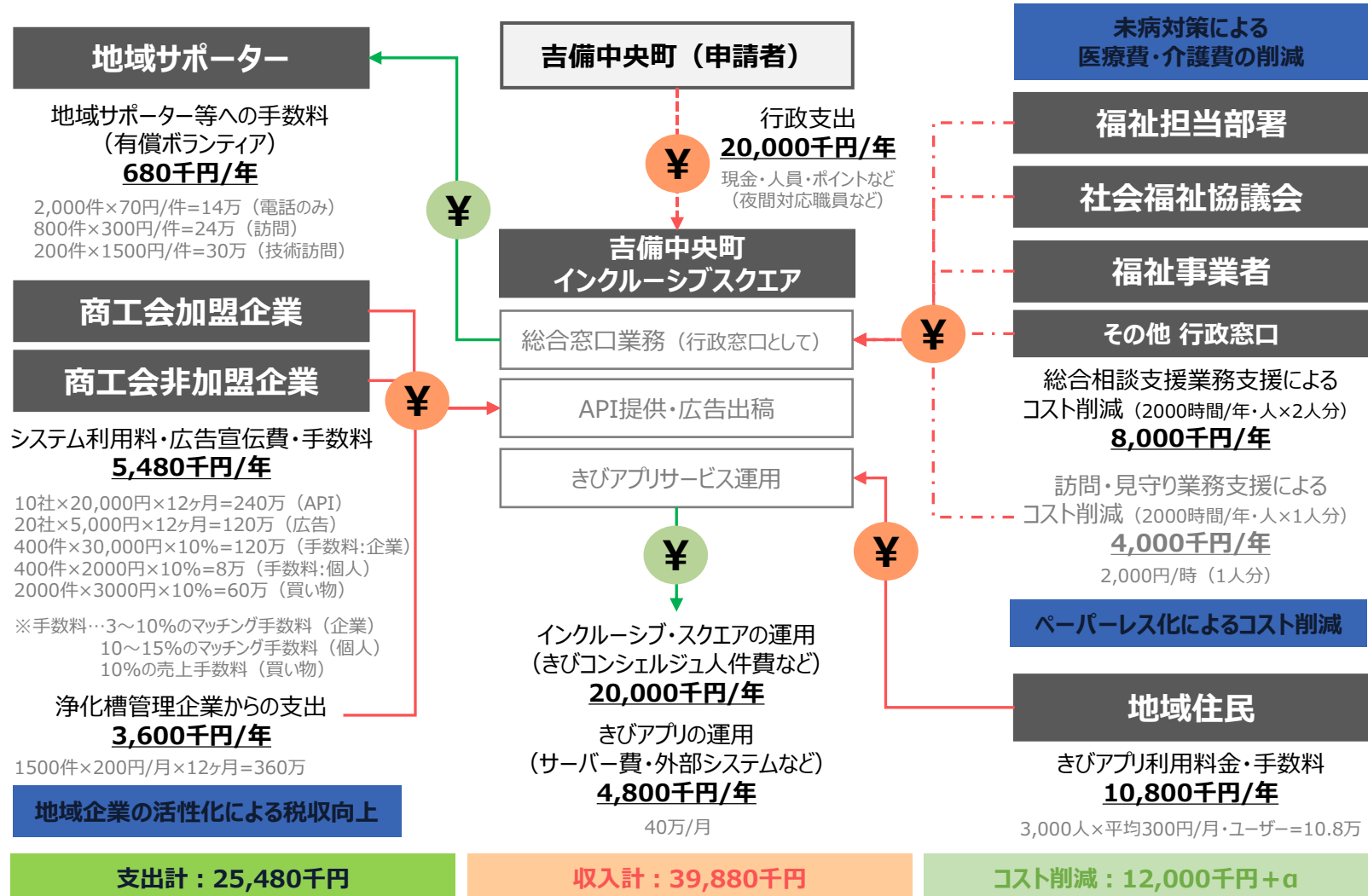
- ・データ連携基盤と各サービスの連携強化
- ・サービス間のデータ融合による登録作業などの効率化
- ・生産性向上による住民サービスへのタスクシフト
- ・地域全体のWell-being向上



ビジネスモデル：「① きびアプリを活用した収益・コスト削減モデル」

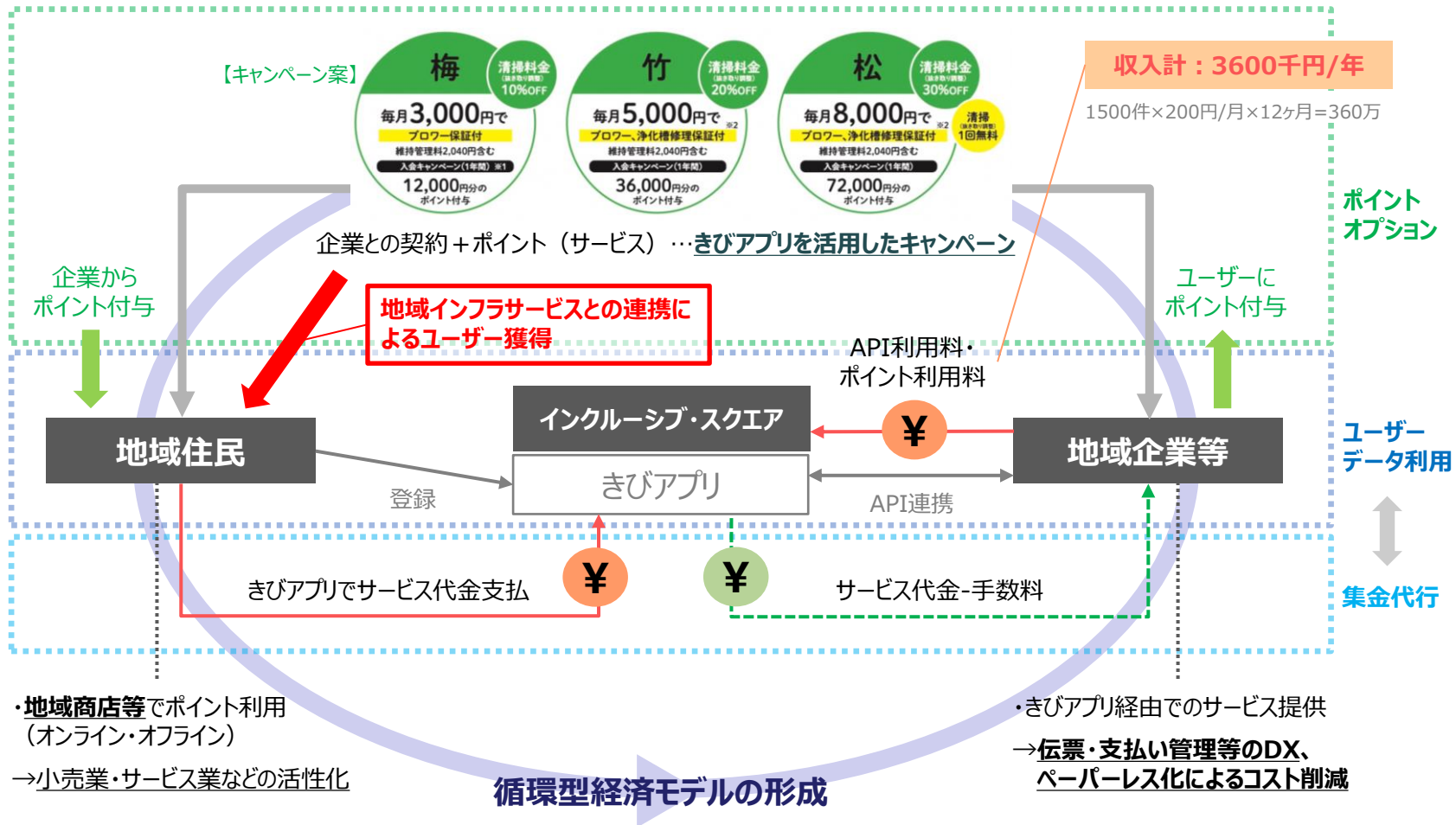
令和5年度以降、以下の収支モデルにて継続的にサービスを提供していきます

地域企業や商工会とも協働し、地域のインフラシステム（浄化槽・水道など、官民間わず）ときびアプリを連動させることでインフラ管理業務のDXを低コストで推進、それぞれの事業体が削減できるコストの一部をオンライン・オフラインで使用できる地域ポイントとしてユーザーに還元、生活、上下水道料金等、公共料金の支払いと併せてアプリの利用促進を行うモデルを構築していく。



ビジネスモデル：「① きびアプリを活用した収益・コスト削減モデル」

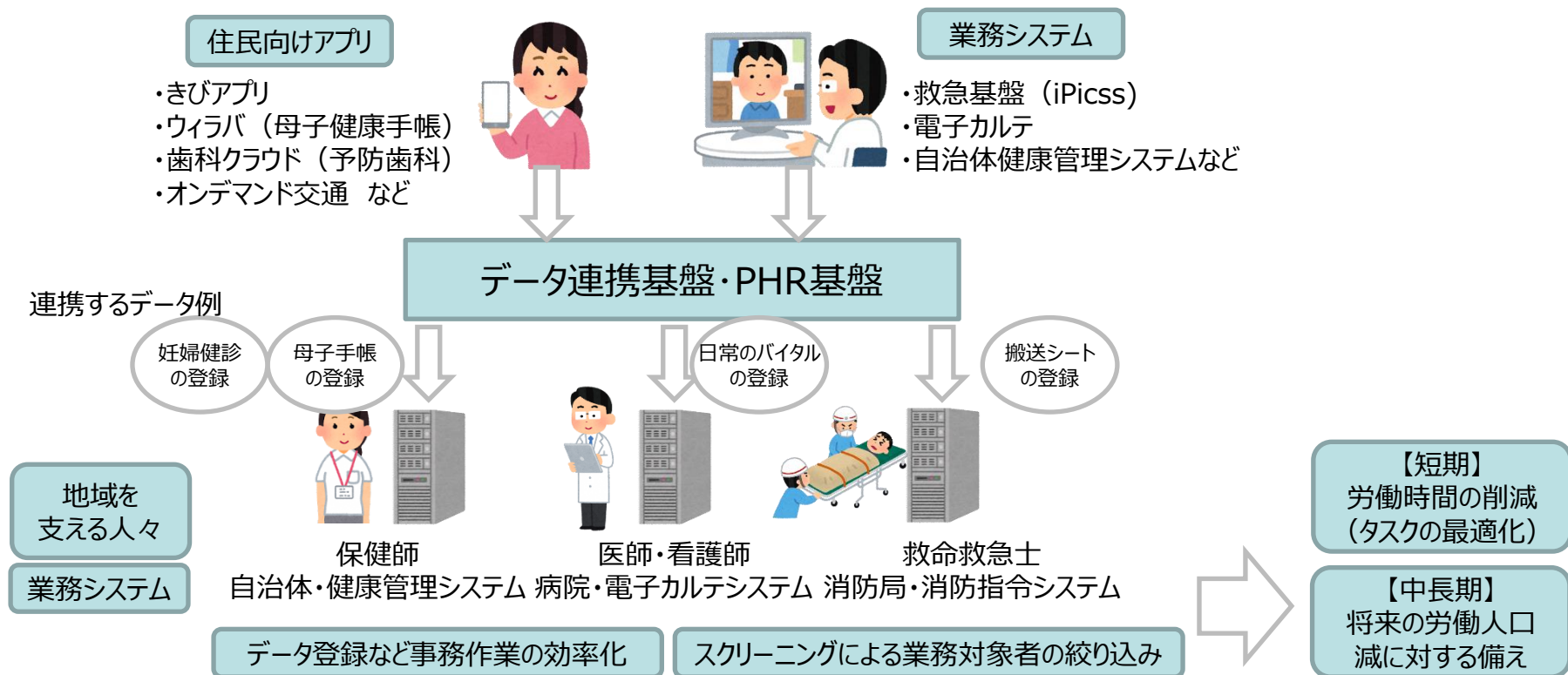
きびアプリを活用した収益・ユーザー獲得モデルについて (例：浄化槽事業者)



例) 浄化槽管理システムと連携
→検査結果伝票のペーパーレス化・
清掃費用の集金代行など

ビジネスモデル：「② 地域を支える人々（行政・医療・介護）の負担軽減による持続可能モデル」

吉備中央町のような中山間地域では、大手の民間企業がビジネスをする十分な商圈がなく、ビジネスによって収益をあげてIT投資にかかる費用を賄うモデルは成立しづらい。そのため行政が行っている社会保障、社会インフラをより低コストで実現する施策を実施し、収支バランスをとっていくほうが現実的と考えられる。特に少子高齢化・人口減少社会の中で、今後、労働力である医療従事者をはじめとする地域を支える人々の生産性をいかに向上させ、将来、人口が減少し成り手が少なくなった状態でも社会保障を維持できるかがポイントであり、データ連携基盤を活用して各業務システムと連携し、「事務作業の効率化」や「スクリーニングによる業務対象者の絞り込み」などを実現していくことでこれを目指す。今回の申請ではこれをより具体化するために地域を支える人々の業務調査を実施し、改善可能な業務の抽出や効果の測定を実施する。



ビジネスモデル：「② 地域を支える人々（行政・医療・介護）の負担軽減による持続可能モデル」


データ連携基盤および各サービスが継続的に運営されていくためのビジネスモデルとして、事業収益だけでなく、**地域を支える人々（行政・医療従事者など）の現状の運用を可視化し、ICT導入によるコスト(人件費・業務)削減や働き方改革(タスクシフト)に関する効果を調査・検証することで持続性のある活動を推進する**


【調査・検証内容】

調査内容	調査ポイント	アウトプット
① 業務量調査 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査項目軸と分析軸 (例) ・PC入力時間 ・申し送り時間 ・引継ぎ時間 など 	負荷の多い作業の可視化 
② 現場確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査項目軸と分析軸 (例) ・手書きの状況 ・残業時間の業務内容 ・直接/間接業務切り分け など 	直接時間と間接時間の可視化 
③ ICT導入による効果・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業サービス×効果 ・作業時間 ・関連費用削減 	業務効率化と効果 

【効果イメージ】

例) 自治体職員（保健師）の場合 ※以下は仮の数値として記載


 自治体の保健師の数


 データ登録にかかる時間/日

保健師の単金

$$3人 \times 1時間 \times 2000円 \times 20日 = 12万円 /月の経費削減効果$$

$$= 144万円 /年の経費削減効果$$

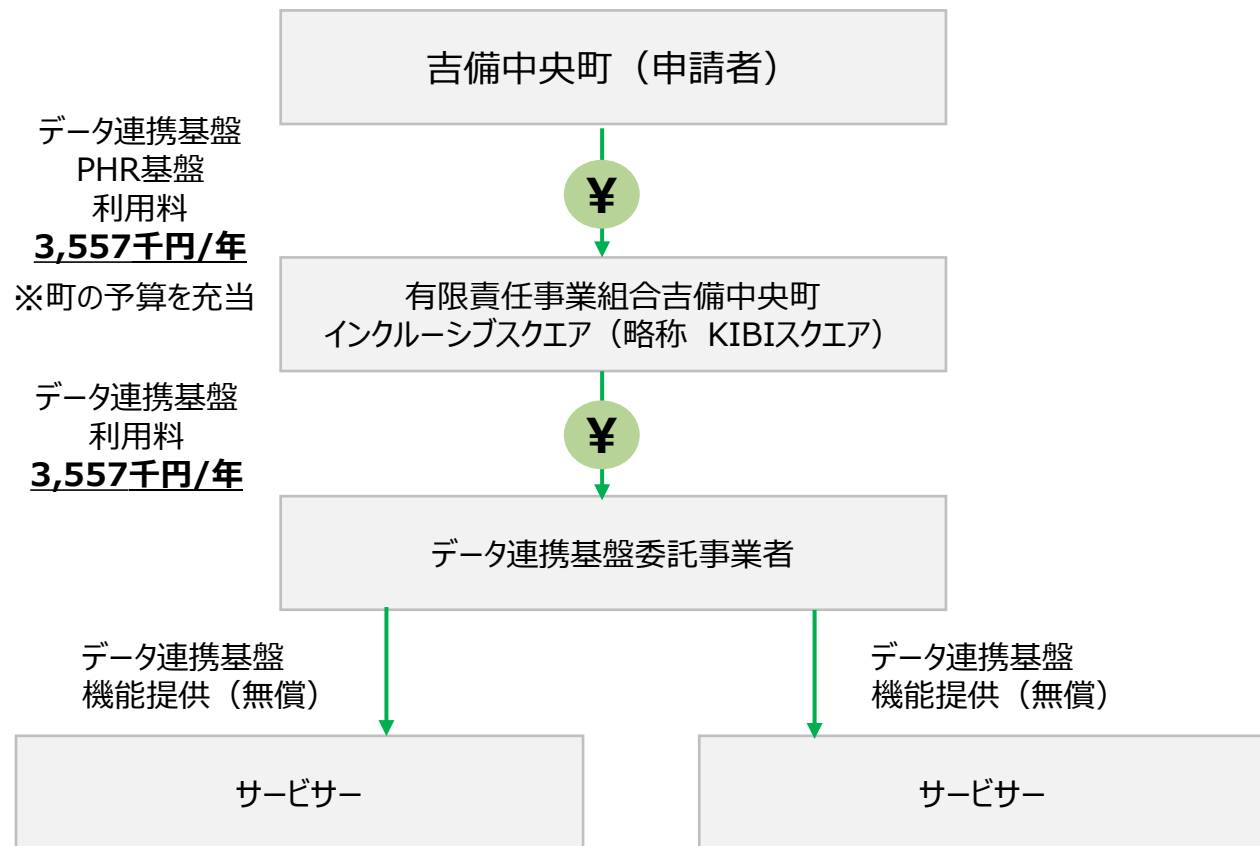
将来的に人口減少も鑑みて
保健師のタスクシフトを実施した場合 保険料なども含めて削減効果がある

【調査対象（予定）】

- ① 救急医療 : 救急救命士の業務内容調査
- ② 遠隔診療 : 担当医師や看護師の業務内容調査
- ③ 母子・児童見守り : 保健師の業務内容調査
- ④ 歯科健診 : 学校保健担当者の業務内容調査（2022年度サービス開始）

ビジネスモデル①：「データ連携基盤・PHR基盤」

令和5年度以降、以下の収支モデルにて継続的にサービスを提供していきます



【データ連携基盤におけるビジネスモデルの考え方】

データ連携基盤の考え方として、データ連携基盤を道路、流通するデータを車、各サービスを移動元、先の施設に例えると理解しやすい。

データ連携基盤の利用料をサービスから徴収するということは、高速道路を通行するのと同義である。高速道路しかない道路でデータの流通が促進するとは考えにくく、

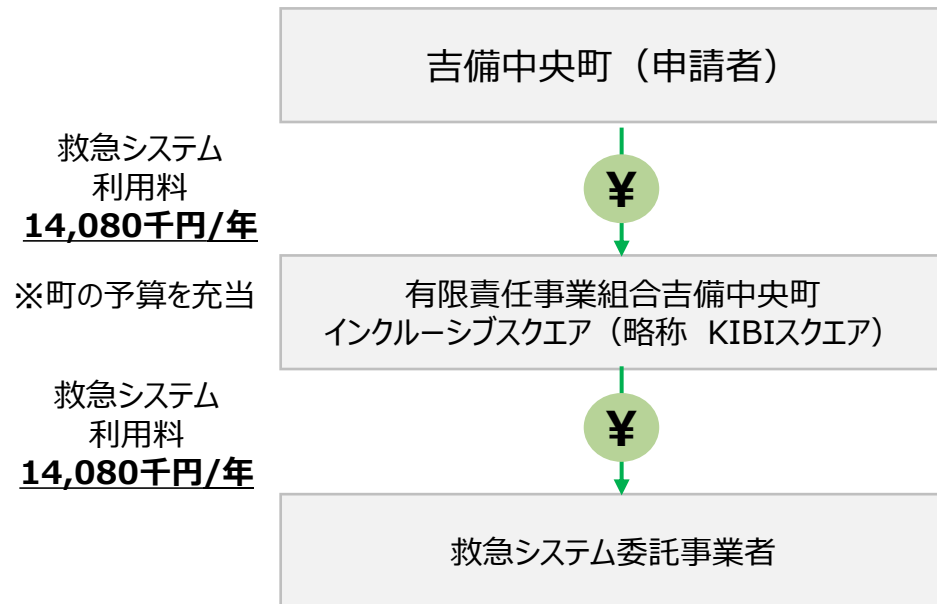
まずは行政が無償の道路（県道・市道：データ連携基盤、国道：マイナポータルAPIなどの基盤）を整備し、一定のデータ流通が見込めるようになった後、特定の需要が見込める領域を高速道路化（有償化）するべきと考えている。吉備中央町で採用しているデータ連携基盤は、共同利用型モデルで人口規模に応じた価格設定となっており、利用料負担を低減している。

今回の申請ではマイナンバーカードの活用や医療機関との連携といった機能拡張にあてられており、運用費の追加はない形にし事業継続性を考慮している。

費用	データ連携基盤・PHR基盤利用料 ※2023年度追加費用なし	3,557千円
収入	業務負荷軽減によるコスト削減	※令和5年度にて調査

ビジネスモデル①：「救急医療」

令和5年度以降、以下の収支モデルにて継続的にサービスを提供していきます



【地域を支える人々(行政・医療・介護)の負担軽減による持続可能モデル】

「救急」に関しては、社会保障の一環として収益をあげるモデルはそぐわないと考え、地域を支える人々（行政・医療・介護）の負担軽減モデルで考えており、令和5年度に業務負荷軽減によるコスト削減に関して調査を行う計画である。

費用	救急システム利用料 ※2023年度追加費用なし	14,080千円
収入	業務負荷軽減によるコスト削減	※令和5年度にて調査

ビジネスモデル①：「母子健康手帳のデジタル化サービス」

令和5年度以降、以下の収支モデルにて継続的にサービスを提供していきます

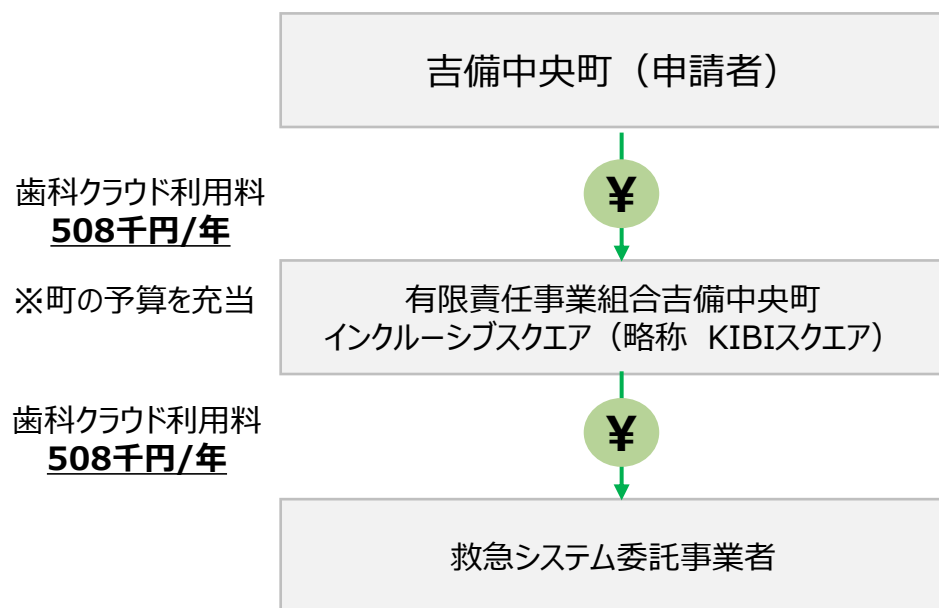


【地域を支える人々(行政・医療・介護)の負担軽減による持続可能モデル】

「母子保健」に関しては、社会保障の一環として収益をあげるモデルはそぐわないと考え、地域を支える人々（行政・医療・介護）の負担軽減モデルで考えており、令和5年度に業務負荷軽減によるコスト削減に関して調査を行う計画である。

費用	ウイラバ利用料 ※2023年度追加費用なし	6,160円
収入	業務負荷軽減によるコスト削減	※令和5年度にて調査

令和5年度以降、以下の収支モデルにて継続的にサービスを提供していきます



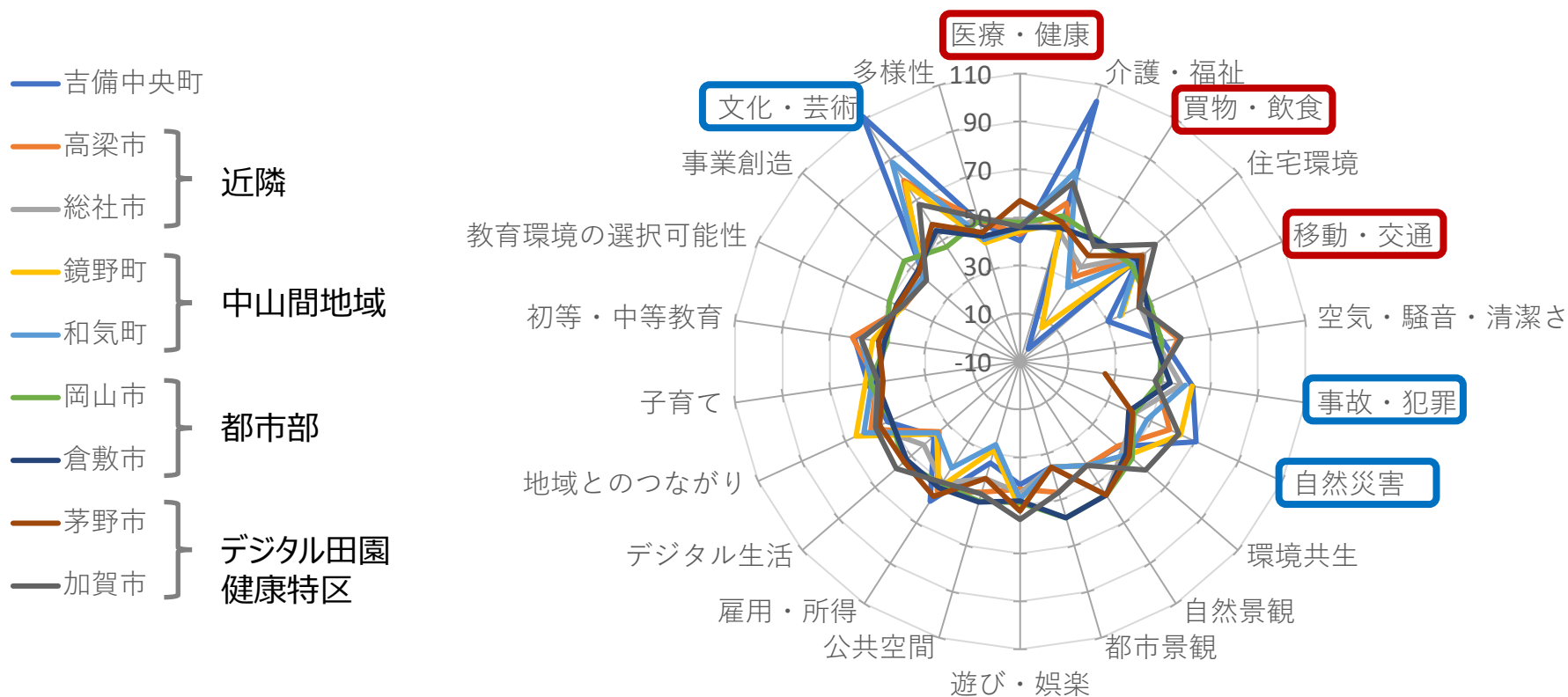
【地域を支える人々(行政・医療・介護)の負担軽減による持続可能モデル】

「地域の子育て支援」「健診」に関しては、社会保障の一環として収益をあげるモデルはそぐわないと考え、地域を支える人々（行政・医療・介護）の負担軽減モデルで考えており、令和5年度に業務負荷軽減によるコスト削減に関して調査を行う計画である。

費用	歯科クラウドサービス利用料	508千円
収入	業務負荷軽減によるコスト削減	※令和5年度にて調査

● 分析ツール等を活用した結果

【Well-being客観指標：吉備中央町と他地域の傾向分析】

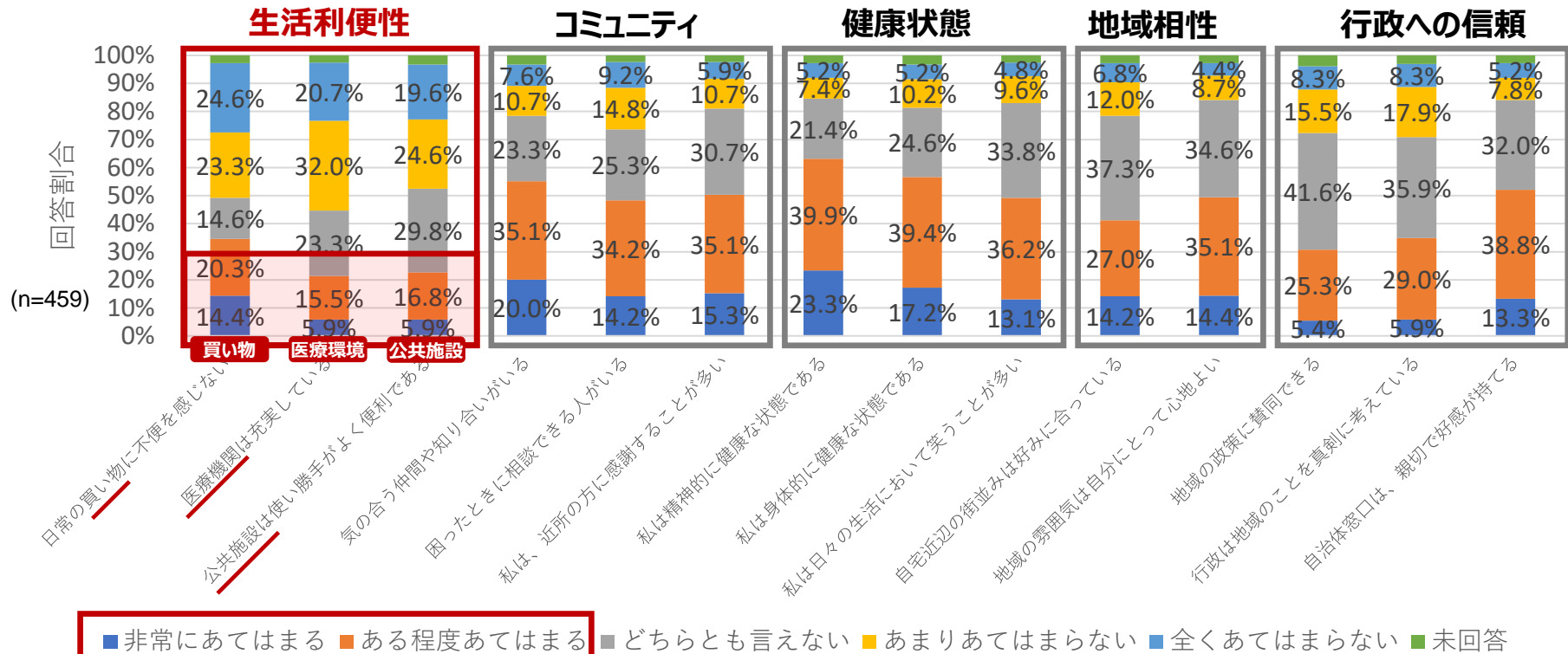


上記結果に対する分析・コメント

「文化・芸術」・「介護・福祉」・「自然災害」・「事故・犯罪」の偏差値は高く、安心・安全で暮らしやすい環境ではあるが、一方で、他の自治体と比較しても、「医療・健康」・「買物・飲食」・「移動・交通」などの偏差値が低く、日々の生活に関係する暮らしやすさ点では、改善が求められる

● 分析ツール等を活用した結果

Well-being調査結果：地域生活Well-being（個人因子）

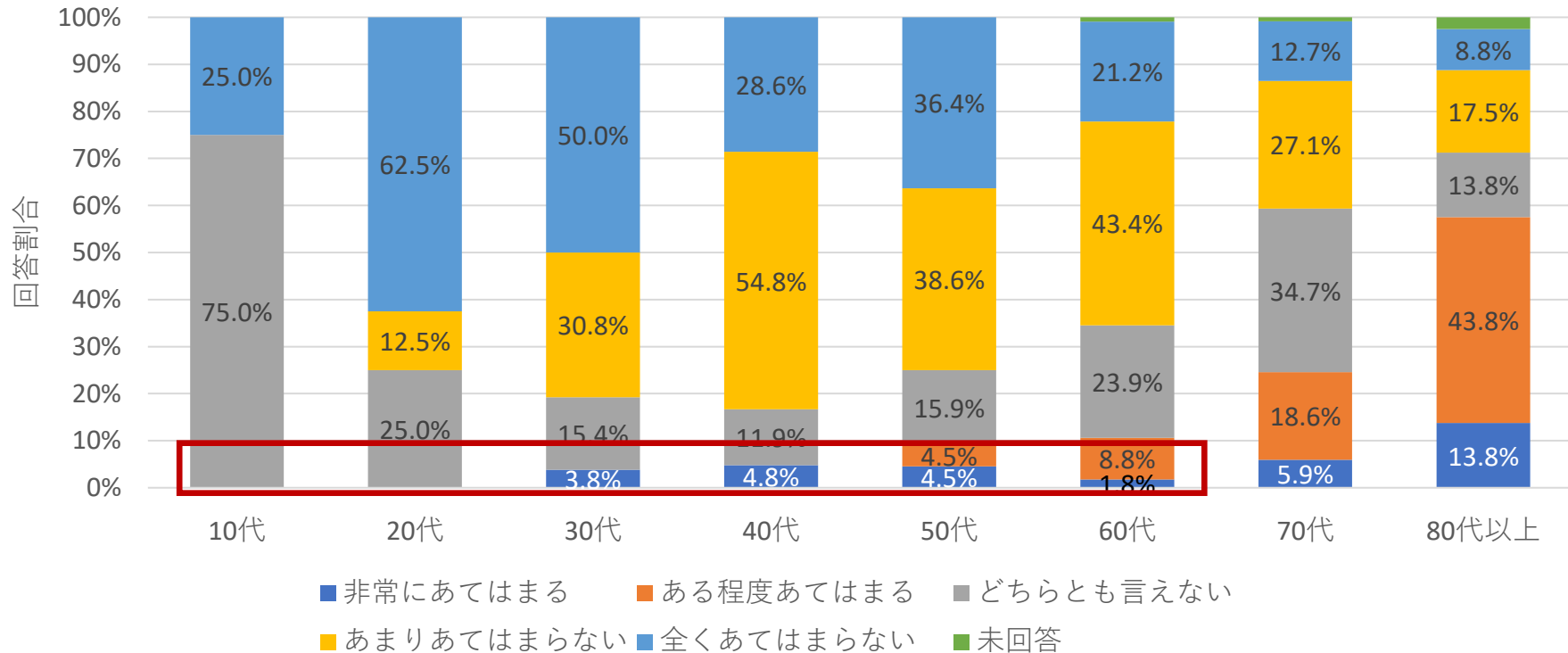


上記結果に
対する分析・
コメント

客観指標の偏差値と同様に、生活利便性(買い物、医療機関、公共施設)への満足度が低い

● 分析ツール等を活用した結果

Well-being調査結果：医療環境に対する満足度（年齢別）

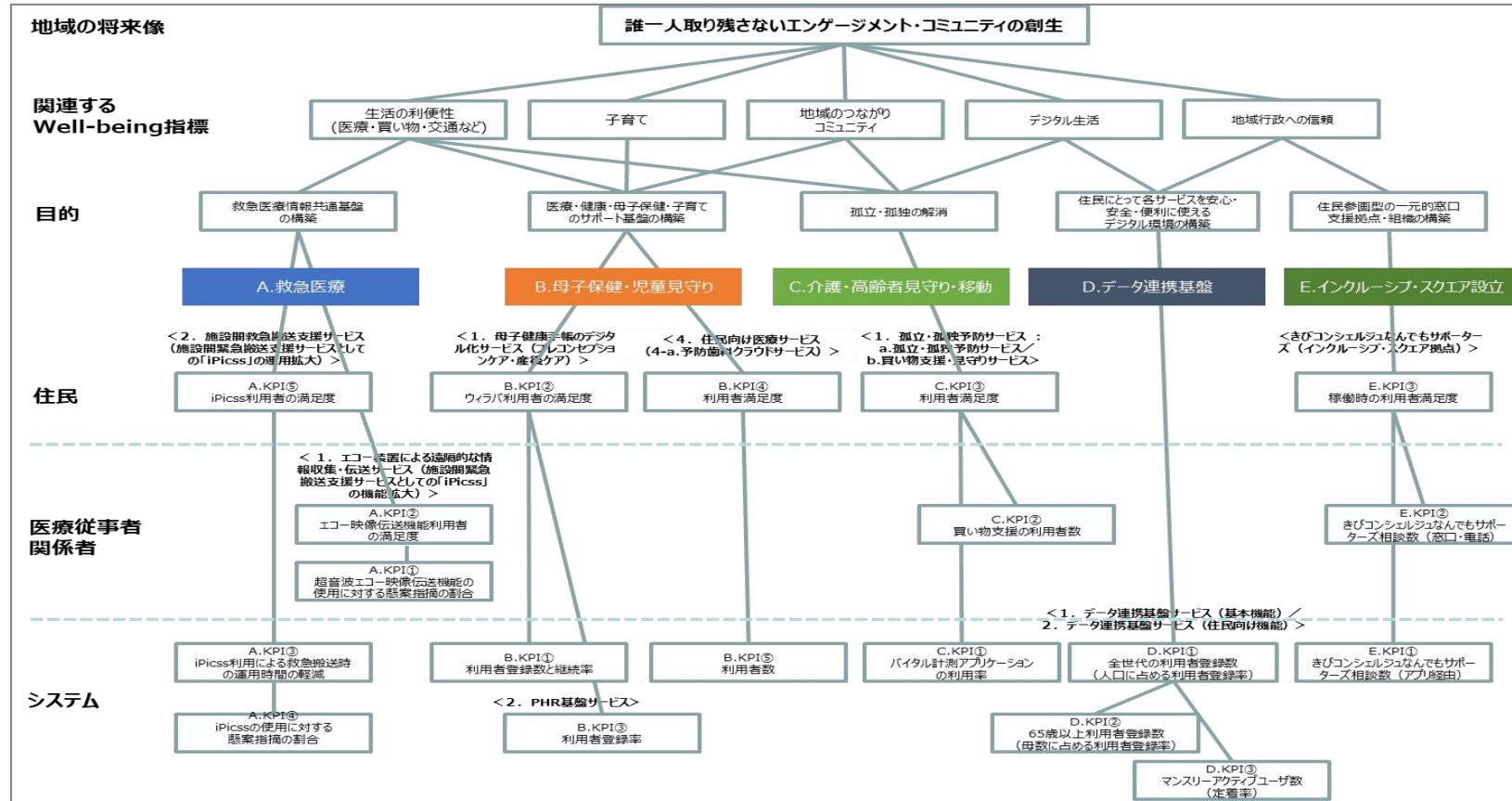


上記結果に対する分析・コメント

若い世代の満足度が低い傾向にある
高齢者家族を町外の病院に連れていくために、仕事を休むなどの対応をしていることが課題である
(ヒアリング結果から)

Well-being向上に向けたシナリオの可視化

【Well-being指標と事業サービスKPIの体系図】



上記結果に対する分析・コメント

目標達成に向け共通認識を図るために、地域課題に対するWell-being指標と事業サービスのKPIとの関係性を体系化し、各事業のKPIの達成状況を含め総合的に評価することで、本事業の具体的な施策を改善し、より効果の高い事業推進を実現することで、Well-beingの向上を図っていく。

● Well-being指標を活用した調査結果・シナリオ等を活用した事例

住民の集いの場や関係機関を訪問し、Well-being調査結果のフィードバックや生の声をヒアリング・ディスカッションの実施


地域課題		住民の声(要望・ディスカッション)	
Well-being	医療・健康	<ul style="list-style-type: none"> 総合病院がなく、救急時に不安 診療科(小児科・内科・耳鼻科・歯科)の充実 産後ケア、リハビリ環境の充実 	コメント数 1位：44.3%
	買い物	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要なものを町内で買えない ベビー用品が買えるお店が欲しい 高齢者宅への移動販売などの充実 	コメント数 2位：31.2%
	移動・交通	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関が近くにない 町外のかかりつけ医への通院が大変 買い物に隣町まで行かなくてはならない 	コメント数 3位：30.5%
	デジタル生活	<ul style="list-style-type: none"> インターネット環境の充実 デジタルに不慣れ、サポート体制を希望 利用シーン、価値、マイナンバー活用が不明 	
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で人とのかかわりが減った (49.9%) ちょっとした相談ができる環境 高齢者、子供、障がい者が住みやすい町 	



● 公表URL（調査結果・実施報告等のプレスリリース等）

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/degital-denen/11954.html>

本事業の推進に当たり、中核的経営人材は以下のとおりコミットメントいたしました

氏名（ふりがな）	那須保友（なす やすとも）	顔写真	
所属・役職	岡山大学 学長		
本事業に費やした おおよその時間数 （時間/週）	5時間/週		
本事業推進において 果たした役割	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学法人岡山大学の副学長時代から、当町の統括アーキテクトとしてスパークシティ申請時の計画立案サポート・複数の事業者との連携等に尽力。 当町のデジタル田園健康特区の指定及びデジタル田園都市国家構想推進交付金事業の推進にあたり、地域課題解決の先駆的モデルの構築に向けた当町と岡山大学との連携・協力に関する協定締結に尽力するなど、オール岡山大学での組織としての全面的なバックアップ体制を構築。 		

デジタル社会の実現に向け「誰一人取り残されない」ことを目指し、サービス普及に当たって以下のような取組を行いました。

● 高齢者へのサービス周知のための工夫

地域の集会所や公民館で実施されている高齢者向けサロンなどに訪問、住民向けアプリ「きびアプリ」の説明会や、スマホ自体の利用に慣れていただくためのイベントを実施。

また、地元企業と連携した個別訪問や「きびコンシェルジュ」の窓口にて、アプリや本事業についての説明を丁寧に行い、サービスやアプリの利用をしていただく取組みを行なった。



住民向け説明会の様子



サロンでのイベントの様子